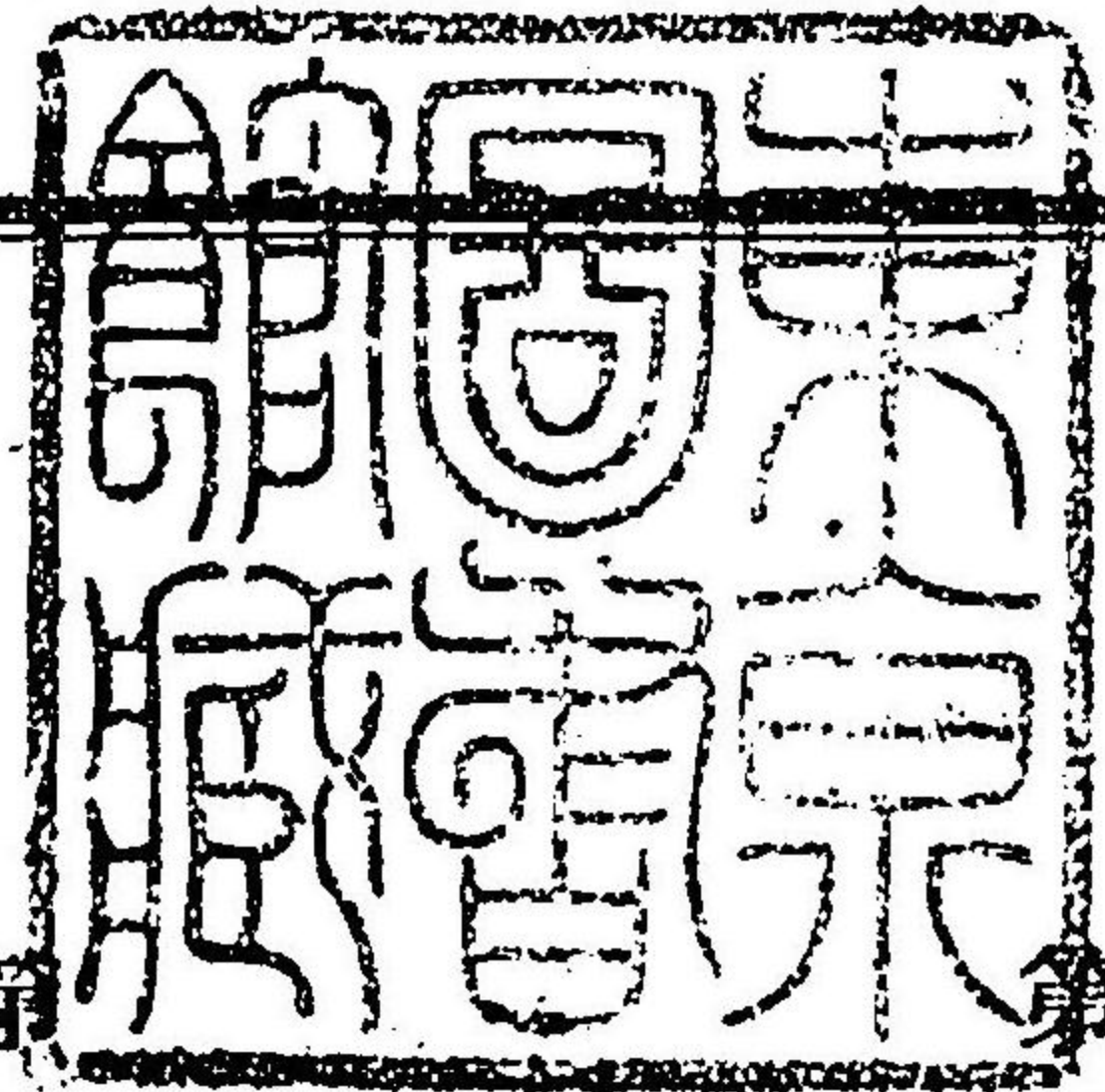


No 2882 / 23



支那史卷三目錄

第一篇 兩晉南北朝史

第一章 西晉の盛衰

第一節 武帝の治世及ひ八王の亂武帝の亂の武帝

后の跋扈及八王の亂の專恣 賈

第二節 劉淵の興起及ひ西晉の滅亡劉淵

の興起 漢兵の侵入 洛陽の

第二章 東晉の興亡 十二丁

第一節 元帝の興復及ひ王敦蘇峻の

亂 元帝の即位 王氏の強盛

を平教を平く 蘇峻の反 蘇峻

第二節 桓温の事跡及ひ苻秦の來寇



第三節

代庾翼武昌温成鎮をす桓温枋頭の温翼秦に
を伐つ謝安の死温の枋頭の肥敗
水の役謝安の死温の枋頭の肥敗

第四節

十六國の盛衰興亡(上)成漢の慕容
拓跋珪の立興る石勒前漢を亂滅す
後趙の虎符健國を建つ符堅前燕の
隆盛符健國を建つ符堅前燕の
を伐つ符堅前燕の

第五節

十六國の盛衰興亡(下)前秦の苻
苻堅の起る苻堅の起る苻堅の起る
南燕の興る苻堅の起る苻堅の起る
後燕の興る苻堅の起る苻堅の起る
後秦の興る苻堅の起る苻堅の起る
北凉の興る苻堅の起る苻堅の起る

(附)十六國表并序

兩晋大事年表

第三章

第一節

宋齊の沿革の徐入傳寇の廢太子劭魏
興起の宋廢帝滅亡唐蕭鸞の篡殺
貴後魏の入寇唐蕭鸞の篡殺

五十三丁

滅亡

第二節

梁陳の沿革 侯景の亂 諸王の
魏の滅亡 陳の先 後興起
梁の滅亡 陳の帝 陳北伐 後主起

第四章

北朝

六十八丁

第一節

後魏の沿革 魏の創業 孝文帝の愛
政治の亂 魏の政治 魏の創業 孝文帝の愛
政治の亂 魏の政治 魏の創業 孝文帝の愛

第二節

齊周の沿革 宇文泰の事業 及西魏東魏の西
滅亡 宇文泰の事業 及西魏東魏の西
滅亡 宇文泰の事業 及西魏東魏の西

第五章

(附)南北朝大事年表

第一節

制度 官制 兵制 田制 稅法
學制 學校の沿革 經文學 曆法 史學
宗教 佛教 道教 天

第二節

宗 佛 道 教 天

第三節

技藝 音樂 書畫

第四節

產業 農業 商業

第五節

風俗 氣質 車馬 頭飾 姻衣 服喪 葬

第六節

年中行事

支那史卷三目錄

支那史卷三

常陸 市村瓚次郎

出雲 瀧川龜太郎

合著

兩晉南北朝史

章 西晉の盛衰

第一節 武帝の治世及び八王の亂

皇帝司馬炎は司馬昭の子なり帝曹魏の孤

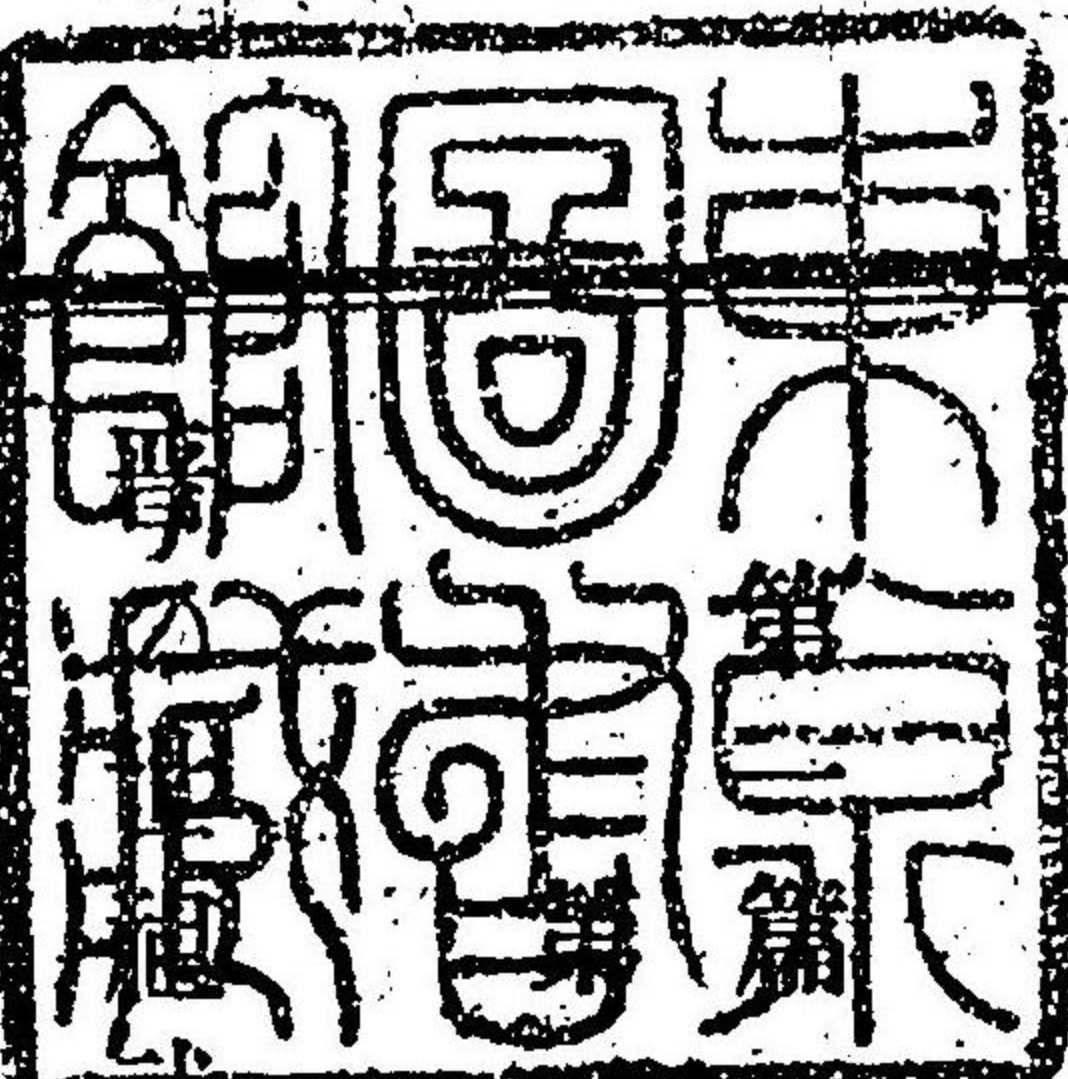
立に懲りて大に宗室を封し又杜預王濬等と遣はして

吳を滅し海内を一統せり帝曾て婦女を擇て後宮に充

てたりしが吳を滅すに及て又吳の宮人を擇て宮に入

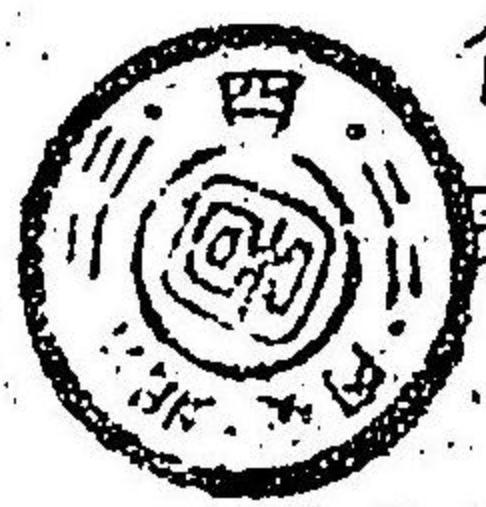
れたり是に於て掖庭の女殆万人に近し帝常に羊車に

乘し宮人の家に至りて宴寢す時に皇后楊氏の父楊駿



武帝の淫佚

W 28838 / 23



外戚及び
寵臣の専
恣

及ひ其弟楊珧楊濟等事を用ひて専恣なり(時といへり)帝の寵臣賈充も亦常に荀勗馮紘等と相結びて姦をなす鮮卑の秦雍(陝西)に寇すに及て帝充に命じて軍を督せしめんとす充外に出つるを願はず依て勗の策を用ひて其女を納れて太子衷の妃となし遂に留て權を專にすると得たり是時張華文學才識を以て名あり齊王攸德望を以て名あり勗等之を忌み華を譖して外に出て幽州の軍事を都督せしめ又帝に勸めて攸を出して青州を都督せしむ攸憤怨病を發して死しぬ楊駿又宗室を忌み帝に勸めて諸王を外に出さしむ是に於て諸王皆國に就く唯汝南王亮未だ發せず會帝疾あり亮と駿ととして太子を輔けしめんとす帝の疾殷なるに及

賈后の跋
扈

て楊后更に駿を以て太尉太子太傅となし汝南王をして國に就かしめたり帝在位二十五年にして崩す太子衷位に即く是を惠皇帝といふ帝性暗愚なり母楊后を太后となし賈妃を皇后となし楊駿を太傅大都督となす賈后容貌醜陋なりと雖險姦にして權略あり楊太后と善からず孟觀李肇も亦駿と隙あり后乃觀肇と謀り遂に駿の謀反を誣ひ珧濟等を併せて之を殺し又帝に勸めて太后を廢して庶人となす是に於て汝南王亮を徵して太宰となし太保衛瓘と共に政を輔けしむ既にして楚王瑋をして亮と瓘とを殺さしめて又瑋を殺し更に張華裴頠を用ひたり后益専恣にして遂に太子遙を廢し又楊太后を弑す時に趙王倫京師に在り其嬖人

孫秀と謀り齊王冏と共に兵を率ゐて宮に入り后を廢して遂に之を弒し又張華裴頠を殺す倫自ら相國となりて中外の諸軍事を都督し冏を出して許昌(河南省許州)を鎮せしむ既にして倫帝を廢して自ら位を僭す是に於て齊王冏河間王顒(颯時に關中を鎮せり)成都王穎(穎時に鄴を鎮せり)共に兵を起して倫を討つ幾もなくして倫誅に伏し諸王京師(晉に都す)に入り冏は大司馬となり穎は大將軍となり顒は侍中大尉となり既にして顒穎各其國に還り冏獨京師に留まりて政權を專にし奢侈を行ふ顒乃上表して穎を以て冏に代らしめんと請ひ遂に兵を擧げて京師に向ふ又長沙王又(又時に京にあり)檄して冏を討せしむ又乃帝を奉して冏を討し遂に之を斬れり(益州時)

に李流の亂あり亦頡頏然たりき顒又父の内に在るを惡み穎と共に京師に向て父を攻む父兵を率ゐて拒き戦ひしに互に勝敗あり時に東海王越京師にあり事の濟らざるを慮りて父を收めて外兵を納る穎遂に京師に入るを得たり尋て穎鄴(河南省彰德府)に還りて丞相となる顒遂に穎を表して皇太弟となす穎僭侈甚しく大に中外の望を失ふ越依て帝を奉して穎を討つ穎石超を遣はして拒戦せしめ大に越の兵を破り帝を迎へて鄴に入る越遂に東海(今山東省沂州府と蘇省海州とにあり)に走還せり王浚の兵を起して穎を討つに及び穎又帝を擁して京師に還れり時に顒の將張方兵を擁して京師にあり朝政を專れず穎また政に與るを得ず方遂に帝と穎と

と擁して長安に入りぬ顓頊を廢し豫章王熾を以て皇太弟となす越兵を東海に起して長安を攻む顓頊張方を殺して和を求む越聽かずして遂に長安に入り帝を迎へて復京師にかへり帝越を以て太傅となす既にして顓頊皆殺されて内亂初めて平きぬ是を八王の亂(南故)と云ふ王亮趙王倫河間王顓頊楚王瑁長沙王元成郡王穎齊王冏東海王越といふ惠帝在位十七年にして崩す皇太弟熾立つ是を孝懷皇帝といふ

第二節 劉淵の興起及び西晋の滅亡

初め匈奴に劉淵といふ者あり祖を單于於扶羅といひ父を左賢王豹といふ任子となりて洛陽にありしが父豹の死するに及て武帝淵を以て左賢王となす厥後成都王穎淵を表して五部(魏の時匈奴の衆を分)の大都督

984

となし兵を將ゐて鄴に居らしむ淵博く經史に通し兼て武事に習へり五部の豪傑及び北方の名儒多く來り歸す淵の從祖宣族人に謂て曰く左賢王(淵を指す)英武人に超はたり天の此人を生せしは將に匈奴を興さんとするなり今司馬氏の兄弟相殘ふ是我先業を復するの時になりと乃相共に謀て淵を推戴す王浚の穎を攻むるに方り淵穎に説きて還て五部の兵を召さんと請ふ穎乃淵を拜して北單于となす淵左國城(山西省汾州府)に至りて大單于と稱し遂に國を立て漢と號す時に永興元年なり淵の子聰驍勇にして兼て經史に通す族子曜も亦文武の才あり石勒王彌等と共に將となれり勒は羯人にして勇略あり王彌も亦將略に富あり懷帝の位

漢兵の入寇

に即くに及て淵遂に帝と稱して平陽(山西省)に都す是と光文帝といふ淵屢劉聰劉曜石勒王彌等を遣して晋を攻む是に於て太傅越將を遣はして之を拒かしめしに屢利を失へり既にして劉淵疾あり劉聰を大司馬大單于となし劉曜を征討大都督單于左輔となし太子和を輔けしむ淵の殂するに及て太子位に即きたりしか性猜忌にして聰を殺さんとす聰乃之を弑して自ら帝位に上れり聰又劉曜石勒王彌等を遣はして晋に寇す時に劉琨河朔の地にあり使を太傅越に遣はして共に漢を討たんと請ひしに許されず漢兵の洛陽に迫るに及て越羽檄を以て四方の兵を徴ししに至る者なし乃甲士四方を帥めて出て拒く會越疾を得て軍中に薨す

洛陽の陥落

長安の陥落

王衍等越の喪を奉して歸らんとし大に石勒に破られたり勒遂に劉曜等と共に洛陽を攻めて之を陥れ帝を執へて平陽へ送りぬ時に荀藩等秦王業(愍帝)を奉して許昌に走り遂に長安に入りて行臺を建つ劉聰の懷帝を殺すに及て業位に即く是を孝愍帝といふ帝麴允を尙書左僕射となし索綝を尙書右僕射となす尋て綝を衛將軍となし軍國の事を委す既にして劉曜進て長安に寇す麴允索綝と共に兵を率めて之を拒くかくの如きと兩年に亘りしか曜の長安を圍むに及て城中食盡き帝遂に出で降り允は自殺し綝は殺されたり帝平陽に送られて懷安侯となりしが後遂に殺されぬ是時に方て劉聰は河北の地を據有し李雄は既に蜀に據りて

帝と稱し拓跋慕容の諸氏も亦北方に崛起し(第二章第一節)海内分裂して西晋の滅亡するに至れり既に
 帝といふ

勅は勅掠の父祖らは羯人の小奴となりしが并州郡武郷に在り
 がり劉淵の興るに及後淵に從ひて其將と爲り
 功比すべきたり後帝ひに或人高に何人
 答ふ北乃笑て事ふ卿の言は甚過光武に高に共
 壻中落々馳驅す日月を然大如く事行べしや
 曹孟德司馬仲達の孤兒寡婦を欺きて天の下を
 取るに倣ふ可からざる其抱負の大きき此の如く
 し勅又無學樂みどし諸生を漢書を讀むを聴き
 之を勸聴く其樂みどし諸生を漢書を讀むを聴き
 之が鄙食其宜し六國を失へり立然るに何を以て
 てる曰く此法宜し六國を失へり立然るに何を以て

にを得たるのやと留候の諫を聞き及て又曰く頼

第二章 東晋の興亡

第一節 元帝の興復及び王敦蘇峻の亂

元皇帝睿は瑯琊王覲の子にして司馬懿の曾孫なり初め安東將軍となり揚州の諸軍を都督して建業(江蘇省)と鎮し後又丞相となり中外の諸軍事を都督す長安の陥るに及て晋王の位に即き王導と驃騎將軍となし中外の諸軍事を都督し尙書の事を録せしめ王敦(導の従兄)と大將軍江州の牧となす愍帝の殺されたるに及て初めて帝位に即きぬ時に王敦は揚州の刺史を領し征討諸軍を都督したりしが尋て鎮東大將軍となり江楊荆湘交廣六州の諸軍事を都督す敦晋室に大勳あり又宗族の強盛なるを恃みて驕恣甚し周訪敦と善からず曾て

元帝の即位

王氏の強盛

周訪祖逖の死

梁州の刺史となりしが敦の不臣の志あるを知りて常に切齒せり是を以て訪の死するまで敦敢て逆をなさず又祖逖といふ者あり曾て豫州の刺史となり常に河北を恢復するを以て自ら任となししが戴淵の來りて豫州の諸軍を都督するに及て快々として樂まざ且王敦の將に亂をなさんとするを聞きて功業の遂く可からざるを知り感激の餘病を發して死しぬ敦逖と訪との卒せしを聞きて益忌憚する所なし帝劉隗刁協を引て腹心をなし稍王氏の權を抑す敦の參軍錢鳳沈充等敦に勸めて兵を武昌(湖北省)に擧げ劉隗刁協を誅するを以て名となし進て石頭城(江蘇省)に至る隗協等帝に盡く王氏を誅するを勸めしに帝聽かず王導を前

王敦の反

鋒大都督となし刁協戴淵等として出戦せしめしが皆
 大敗して還れり帝乃百官として石頭城に詣りて敦に
 見えしめ遂に大赦して敦を丞相都督中外諸軍事江州
 の牧となす敦戴淵と周顛とを殺して武昌に還る帝憂
 憤疾を成して崩す太子紹立つ是を肅宗明皇帝といふ
 帝聰明仁孝なり太子たりし時庾亮温嶠等と布衣の交
 とをなす王敦之を廢せんとしてたりしが嶠等の力により
 て廢せられざるを得遂に帝位に即きぬ敦帝位を纂
 せんを謀り移りて姑熟大安徽省に屯し自ら楊州の牧
 と領す帝王導庾亮温嶠等と敦を討つとを謀る時に敦
 病に罹りしを以て其兄含をして衆を帥めて京師に向
 はしむ帝自ら奮戦して大に含の軍を破れり敦自ら行

王敦を平

かんとして遂に死しぬ是に於て官軍大に敦の軍を破
 りて錢鳳沈充等を誅し悉内亂を平けたり帝在位三年
 にして崩し太子衍立つ是を顯宗成皇帝といふ
 王導庾亮と共に帝を輔けて政をなす時に蘇峻歷陽安徽
 州和に在て陰に異圖あり亮乃峻を召して大司農とな
 し以て其異圖を止めんとす峻遂に兵を擧げて反し姑
 熟を陥る卞壺等峻と戦ひて敗死す庾亮乃尋陽九江江西
 府に奔りて温嶠に依る峻の兵臺城に入り進て闕を犯し
 遂に帝を石頭城に移す温嶠庾亮と兵を起して峻を討

蘇峻の反

たんとし征西大將軍陶侃を邀へて盟主となし共に國
 難を救ふ侃嶠と共に峻を討して遂に之を平けたり
 帝庾亮を以て豫州の刺史となす陶侃の卒するに及て

蘇峻を平

亮代て武昌を鎮し遙に朝權を執れり時に趙の兵屢來り寇し、(石動既に趙王たりて)亮中原を恢復せんと欲し諸將を分ちて各地を鎮せしめ且上疏して趙を討たんと請しに許されど既にして亮卒し其弟翼代りて武昌を鎮しぬ帝在位十七年にして崩し鄒那王岳立つ是と周皇帝といふ

①陶侃は鄱陽平人なり初め劉弘の將となり義陽の叛徒張昌を陽平に討ち斬るが、(石動既に趙王たりて)亮中原を恢復せんと欲し諸將を分ちて各地を鎮せしめ且上疏して趙を討たんと請しに許されど既にして亮卒し其弟翼代りて武昌を鎮しぬ帝在位十七年にして崩し鄒那王岳立つ是と周皇帝といふ

庾翼武昌を鎮す

庾翼武昌にあり心を悉して治をなす戎政嚴明なり常に趙を滅し蜀を取るを以て己が任をなす使を遣はして東燕王統と約し西張駿(駸西北部に甘肅省の)と結びて共に大舉せんとす依て桓温を以て前鋒小督となし移りて襄陽(襄陽府)を鎮す帝翼を以て都督征討諸軍となし桓温を以て前鋒都督となす又庾氷をして荊江等七州の諸軍事を都督せしめ武昌を鎮して翼の繼援となす既にして帝崩し太子聃立つ是と穆皇帝といふ時に年三歳なり褚太后朝に臨み會稽王昱を以て撫軍大將軍

肩に雪降りて懸る、（泥濘甚しかりしかは命して木屑を散じりて懸る、桓温の蜀を伐りつに方て其時へりし所の竹頭を以て釘を製し船を修理した

第二節 桓温の事跡及び符秦の來寇

桓温庾翼に代る

録尚書事となす會庾翼卒せしかば昱其子(之愛)を以て翼に代えんとす時に何充の曰く荊楚は國の西門なり白面の少年を以て當らしむべきにあらざる桓温は英略人に超えて文武の器幹あり西門の任は温に優る者なしと乃温を以て荊梁益寧等の軍事を都督せしめたり時に成主勢政を修めずして人民離叛したりしかば温帥を率めて成都に入り遂に成を滅せり是に於て温の威名甚盛なり昱殷浩の盛名あるを以て引て參政となし以て温に抗す時に趙國大に亂れたりしかば温諸將を遣はして北方を經營す帝又褚裒を以て征討大都督となして北征す既にして裒卒す乃殷浩を以て中軍將軍となし楊豫徐兗青等五州の諸軍事を都督せしめて進

桓温成を滅す

桓温秦を伐つ

取を謀る浩連年北代して功なく又秦(時に符氏國を立て秦と號せり)を伐ちて師を喪ひたりしかば温帝に請ひ浩を廢して庶人となす是より中外の大權悉く温に歸しぬ温又師を帥めて秦を伐ち大に秦兵を破り進て灞上に至る秦主苻健長安の小城を固守す既にして温秦兵と白鹿原に戦ひて利あらず又軍中食に乏しきを以て遂に退還せり帝温を以て征討大都督冀司二州諸軍事となし姚襄を討たしむ(姚襄初め晋に降りて譙城に屯したり)温乃諸軍を督して襄を伐ち大に之を破りて洛陽に入り鎮戍を置きて還りぬ温謝安を以て司馬となす安少より重名あり當時士大夫相謂て曰く安石出てされば蒼生を何如せんと年四十餘に及て初めて出て仕へたり

謝安出つ

枋頭の敗

帝在位十七年にして崩す成帝の子瑯琊王不立つ是を哀^レ皇帝といふ帝會稽王昱を以て丞相となし桓温を大司馬都督中外諸軍録尚書事となし楊州の牧を加ふ温遂に移りて姑熟を鎮す帝在位三年にして崩す弟瑯琊王奕立つ是を廢帝海西公となす是時燕屢來り侵し、
 かは温師を率めて燕を伐ち慕容垂と枋頭河南省衛輝府に戦ひて大敗す是より温の威名頓に挫けたり既にして温壽春安徽省鳳陽府と拔き時に袁真父子壽春に據りて燕に降り參軍郗超に謂て曰く以て枋頭の耻を雪くに足るか超曰く公伊霍の擧をなさざれば大威權を立つる能はずと温遂に建康に詣り帝を廢して會稽王昱を立つ是を簡文皇帝といふ是に於て温の威權内外に行はれて帝は唯拱默

桓温の廢立

桓温の死

するのみ既にして温姑熟に還りしが會帝疾あり温を召して政を輔けしめんとす温辭して朝せず帝在位一年にして崩す太子昌明立つ是を孝武皇帝といふ温前帝の終に臨みて位を禪るか又は居攝せしめらるかを望みしに遂に其望にかなはず是に於て兵を率めて入朝せしが疾を得て復姑熟に還り更に諷して九錫を求めたり謝安等故ら其事を緩らせしかは温遂に九錫を得ずして死しぬ時年六十餘なり是に於て温の少子玄南郡公となれり
 是時に方て秦は既に涼を滅し代を取り其勢甚盛なり帝秦の寇を以て憂となし文武の良將の北方を鎮禦すべき者を求めしに謝安其姪玄を擧げたり玄廣陵江蘇省揚

肥水の役

謝安の死

府州)と鎮じ劉牢之を得て參軍となす將卒精銳にして戰ふ毎に勝たざるをなし(北府の兵)既にして秦主苻堅大舉して入寇す帝謝石(謝安の弟)を征討大都督となし謝玄を前鋒都督となして之を拒かしむ玄等秦兵と肥水(安省)乘して中原を開拓せんと欲し謝玄等をして北方を經營せしめ遂に河南の諸城を復したり然れども帝政を會稽王道子に委す道子政を專にし謝安と隙あり安遂に外に出て卒す帝道子と日に酣飲を以て事となし遂に張貴人に弑せられぬ在位二十四年なり太子德宗立つ是を安皇帝といふ

①初め秦兵襄陽に寇し梁州の刺史朱序を執り還り既にして大舉を謀す或は曰く晋は長江の險

あをり断つ符堅曰く吾を以て外は鞭を授かず其流れを断つ符堅曰く吾を以て外は鞭を授かず其流我卒六十餘萬騎兵八十七万を率て之を長安を劉牢之等兵五千人進す堅を陽城に赴き秦兵の部伍精石等も亦進す堅を陽城に赴き秦兵の部伍精め整て懼るを見又八公山の草木を兵に見肥水に追て陣す却き我をして謂はしむらて勝負を決せしめよと堅其半に兵を待て之を復止むる能はず時朱序却軍に從て其後に潰す晋軍水を呼て追撃し大破れたり破る堅に走退せり

第三節 劉裕の興起及び東晋の滅亡

安帝幼にして不慧なり會稽王道子太傅となりて政を攝す時に王國寶等事を用ひて專恣なり王恭殷仲堪と兵を舉げ國寶等を誅せんとするを名となす道子乃國

會稽王政をなす

孫恩等兵を起す

寶と斬て謝す是に於て恭仲堪兵を罷めたりしが司馬尚之等の事を^{用ふるに}及て恭復兵を^{擧ぐ}既にして恭劉牢之に破られて死しぬ

道子固より暗弱にして政を世子元顯に委す元顯性苛刻にして生殺意に任す東土諸郡の免奴を發して兵役に充てしより東方騷然として安からず是に於て妖賊孫恩等海島より出て亂を^なし會稽^{浙江華府}を陷る八郡^{會稽、吳郡、東陽、新安、永嘉、東陽、新安}の人兵を起して之に應ず其勢頗猖獗なり帝劉牢之に勅して之を討せしむ時に彭城の人劉裕、牢之の參軍となり恩を討して屢之を破れり裕是と以て初めて名を得たり

是時桓立荊州にあり兵を起して殷仲堪を攻殺す帝立

劉裕恩を破る

桓立の反

と以て荊州の刺史となし荊雍等七州^{荊、雍、秦、梁、益、寧、司}の諸軍事を都督せしむ既にして又江州の刺史となし荊江等八州^{荊、益、寧、司、雍、秦、梁、益}の諸軍事を都督せしむ立江陵^{湖北有}に據りて異圖あり遂に兵を擧げて反す帝元顯に命して之を討せしめしに元顯猶豫して發せず立進て建康に入り元顯及び道子を殺す帝立を以て相國となし楚王に封す立遂に帝に迫て位を禪らしめたり是時の方て劉裕京口^{江蘇省鎮江府}にあり何無忌劉毅等と兵を起して立を討つ立覆舟山^{江蘇府上元縣}に戦ひて大敗し帝を挾みて江陵に入り劉毅と崢嶸洲^{武昌府の東}に戦ひて又大敗す遂に逃れて蜀に入らんとし途にて殺されぬ帝乃位に復し裕を以て青州の刺史となし又荊司等十六

劉裕桓立を平く

劉裕南燕を亡す

州の諸軍事と都督せしむ是に於て裕の勢望益盛なり
 南燕主廣固(山東省青州府)に據り屢晋の邊境に寇す裕乃大舉して南燕を討ち廣固を拔きて其主慕容超を執へ建康に送りて之を殺せり是より先き孫恩屢官軍に破られて遂に敗死したりしが其黨盧循徐道覆等また起れり裕の南燕を伐つに及て徐道覆盧循に勸めて番禺(廣東府)より出て、長沙(湖南省長沙府)南康(江西省贛州府)等を陥る何無忌等拒戦して敗死し劉毅も亦敗績す盧循直に進て建康を襲はんとす帝急に裕を徵還して循を討たしめ大に之を破れり循廣州に走り又交州に走りしが遂に刺史杜慧虔に殺さる道覆始興に走りしが亦劉藩等に殺されたり是に於て騷亂全く平きぬ

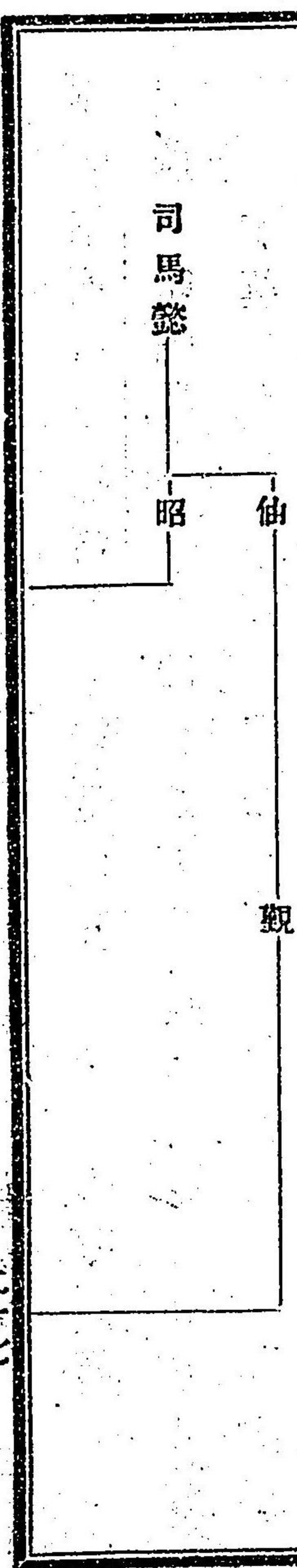
劉裕盧循等を平く

劉裕後秦を滅す

裕次て劉毅諸葛長民等を殺して其忌む所を除去し遂に大尉となり荊揚等二十二州の諸軍事と都督す既にして王鎮惡檀道濟等を率ゐて後秦を討ちて之を滅し還て相國宋公となり遂に帝を弑す帝在位二十三年なり弟瑯琊王德文立つ是を恭皇帝といふ裕爵を進めて宋王となり遂に晋の讓を受けぬ是を宋の高祖武皇帝といふ東晋元帝の興復より十一世一百四年にして亡ひぬ西晋の年代と合すれば十五世百五十六年なり

劉裕東晋を篡す

晋の帝系





第四節 十六國の盛衰興亡(上)

惠帝の世に氏種に李特といふ者あり流民を聚めて亂をなし成都を破りて自ら大將軍益州の牧と稱せしが刺史羅尚に斬られたり是に於て特の弟流代て其衆を

成漢の興起

慕容拓跋二氏興る

劉漢の亂

領す既にして特の子雄之に代り遂に國を建てて成と號す時に劉淵國を建てて漢と號せし年なり又鮮卑に慕容廆といふ者あり大棘城(盛京省錦州府義州西北にあり)に據りて鮮卑大都督となり遂に鮮卑大單于と稱す又鮮卑に拓跋祿官といふ者あり上谷(直隸省宣化府)の北に居りて可汗と稱す諸族晋の亂に乗して並ひ起り各地に割據したり就中劉淵を以て最盛なりとす

劉淵の死して劉聰の立つや靳準王沈事を以て刑賞大に亂れたり聰死して太子粲立つ靳準を弒して悉く劉氏の諸族を殺し自ら漢天王と號す劉曜乃石勒と共に準を討つ準の黨共に準を殺して曜に降り曜遂に帝位に即きて都を長安へ移し國號を改めて趙とい

ふ是と前趙となす

石勒國を立つ

石勒劉曜と隙あり別に國を建て、趙と稱し襄國に都す是と後趙となす勒張賓を用ひて大執法となし専ら朝政を總べしめ石虎を以て單于元輔となし禁衛諸軍と都督せしむ(虎時中山公)劉曜の金墻(河南府)を圍むに及て勒自ら兵を將めて之を救ひ大に前趙の兵を破り劉曜を虜にし遂に其國を滅せり是に於て氏王蒲洪羌酋姚弋仲等皆後趙に降り勒天王と稱し又帝と稱す在位六年にして死しぬ太子弘位に即きて石虎を丞相となし魏王に封す虎遂に弘を弑して自立し都を鄴へ移せり虎蒲洪を以て流民都督となして枋頭に居らしめ姚弋仲を以て西羌大都督となして湍頭(直隸省藺縣)

石勒前趙を滅す

石虎の狂暴

り(あ)に居らしめたり虎性残忍にして大事を喜び大に宮室臺觀を作り又太子遼を殺して子宣を太子となす既にして宣其弟韜を殺したりしは虎又宣を殺して子世を太子となせり時に姚弋仲梁犢の亂を平けたる功を以て西平郡公に封せらる蒲洪も亦略陽郡公に封せられ秦雍州の諸軍事を都督せり虎死して生立つ時に冉閔等石遵に説きて世を弑して自立せしむ閔又遵に説きて曰く蒲洪は人傑なり今關中を鎮せしむれば他日秦雍は國家の有らざるべしと遵乃洪の都督を罷む洪怒て枋頭へ歸り使を遣はして晋に降り遵遂に閔を殺さんとす閔乃遵を弑して其弟鑑を立つ鑑も亦閔を殺さんとす閔又鑑を弑して自ら國を建て、

冉閔の弑逆

後趙亡ふ

魏といふ(是を冉魏と稱す)虎の子祗襄國に在て自立し屢魏の兵と戦ふ既にして劉顯祗を殺して自立し屢魏と戦ひしが閔遂に襄國を抜きて顯を殺せり是に於て後趙亡ひぬ

成漢亡ふ

是より先き成主李雄既に卒す李壽雄の子期を幽して自立し國號を改めて漢といふ壽卒して子勢立つ勢驕淫にして國事を憂へず晋の桓温來り討つに及て遂に出て降る是に於て成漢亡ひぬ(後趙の滅亡に先)又慕容廆も既に卒し子皝立て燕王と稱したり是を前燕となす皝西段氏を破り南趙兵を卻け東高麗を伐ち北宇文を滅し其勢甚盛なりき後趙の亡ふるに方て皝既に卒して子儁位にあり儁慕容恪等を遣はして魏を撃ち冉

前燕の隆盛

符健國を建つ

閔を執へて之を殺し都を鄴に移して帝と稱せり時に蒲洪姚戈仲各關中に據らんとして相争ひたりしか洪遂に戈仲を破り大都督大將軍大單于と稱し姓を符と改めぬ既にして洪其臣に殺されたりしかは世子健代り立ち長安に入て秦天王大單于と稱し又國を大秦と號し尋て帝と稱せり戈仲使を遣はして晋に降りしか幾もなくして卒しぬ其子襄歷陽に屯して屯田を起し將士を訓厲す既にして晋の殷浩と相攻むるに及て襄又使を遣はして燕に降り

桓温秦を伐つ

符健關中に在りて大に國政を修めたり桓温の來り伐つに及て健長安を嬰守す既にして晋軍白鹿原に敗れて退還せり明年健歿して太子生立つ時に姚襄桓温に

符堅立つ

破られて襄陵(山西平陽府)に走り更に關中を圖らんとし進
 て黃落(陝西西安府)に據る生乃符堅等を遣はし襄を伐ちて
 之を殺す襄の弟萇其衆を率ゐて秦に降り生狂暴に
 して誅殺を恣にす堅乃之を弒して自立し王猛を任用
 せりⓧ是時に方て燕王儁已に歿し慕容恪弟垂と共に
 儁の子暉を輔けて大に國威を振ひたり恪卒して後暉
 垂を用ひずして専ら慕容評に任す垂桓温を枋頭に破
 りて威名甚盛なりしかは評之を忌みて竊に垂を除か
 んとす垂乃其子弟と共に秦に出奔す王猛垂を殺さん
 とを勧めしに堅きかず垂を以て冠軍將軍となし賓徒
 侯に封せり初め堅慕容恪と垂とを憚りて敢て燕を攻
 めざりしが是に至て遂に燕を伐ち燕王暉を執つて其

符堅前燕を滅す

國を滅しぬ堅王猛を以て冀州の牧となし關東六州の
 軍事を都督せしめ尋て丞相となし諸政を總理せしむ
 猛性剛明清肅なり農桑を勸課し軍旅を練習し官は才
 に當り刑は罰に當り國富みて兵強く秦國大に治りぬ
 既にして猛卒す堅自ら兵を將ゐて涼を伐つ初め惠帝
 の時張軌涼州の刺史となり西平公に封せられしが其
 子茂に及て前趙に降る趙茂を封して涼王となせり是
 と前涼となす茂より數傳して天錫に至り酒色に溺れ
 て政治を修めず秦兵の來り伐つに及て遂に出で降れ
 り是に於て前涼亡びぬ堅又代を伐つ初め拓拔祿官既
 に死し弟猗盧代王となり諸部を總攝したりしが遂に
 其下に殺されぬ是より弒逆相つきて部落離散したり

符堅前涼を滅す

符堅代を滅す

しが猗盧の從孫什翼健の立つに及て驍勇にして智略あり東は濊貊(朝鮮の北境)より西は破落那(コカンの地方)に至り北は沙漠より南は陰山に至るまでの地を服し其勢復盛なりき然るに秦兵の來り伐つに及て内難あり什翼健の庶長子寔君諸弟を殺し併に其父を弑す堅遂に進て雲中に入り寔君を執へて之を殺し代を分ちて二部となし劉庫仁と劉衛辰ととして分領せしめたり二人は皆劉淵の族なり堅既に諸國を討平し海内を十分して其八と有し東夷西戎の入貢せし者六十餘國ありしといふ

④王猛は北海郡の山人なり少して學を好み儻に及て猛短禍なきが如し往温の退還するに當ての共務を還談す

堅は世徳の孔明に遇ひ見し如し一歳中五如し略く立徳の孔明に遇ひ見し如し一歳中五如し官を遂に丞相に告げてなれり晉は江南に十餘處あり終に相承かて唯下安和世り故に臣の死後晉を國かると相承かて唯下安和世り故に臣の死後晉を我其言を用ひすく之を除き社稷を安ずべし

第五節 十六國の盛衰興亡(下)

秦主堅意稍驕りて紀綱漸亂るるに至れり既にして大舉して晋を伐ち大敗して還りぬ是に於て乞伏國仁(甘肅省蘭州府及)に據り翟斌兵を起して洛陽を攻む堅乃慕容垂として斌を討せしめしに垂も亦叛きて斌と合し遂に燕王と稱せり(後都を中山に定)是と後燕となす姚萇も亦兵を渭北に起して秦王と稱せり

前秦の衰亂

後燕後秦
西燕與る

符堅の死

是と後秦となす是歳慕容冲は平陽(山西平陽府)に起り慕容泓は華陰(陝西同州府)に起れり既にして平陽の諸將泓を殺して冲と奉ず冲進て秦兵を破り阿房城に據りて帝と稱せり是と西燕となす冲の長安を攻むるに及て堅五將山へ出奔す後秦主苻生兵を遣はして之を圍み遂に堅を執へて之を殺す堅の子丕晋陽に在りて帝と稱せり西燕主冲長安に在りて東歸の計をなさず是に於て鮮卑の族怨望する者多し其將韓延遂に冲を弑し段隨と推して燕王となす慕容永等隨を殺して冲の子瑤と立つ既にして又之を弑し泓の子忠と立つ諸將又忠を弑し永を推して王となせり時に秦主丕檄を四方に傳へて姚萇慕容垂を討たんとす永將に東歸せんとし丕に

前秦亡ぶ

西秦起る
西燕亡ぶ

道を借るとを求めしに丕ゆるさず永丕と襄陽に戦ひて大に其軍を破りたり丕南走して洛陽を取らんと謀りしが遂に晋の將に殺されぬ永進て長子(山西潞安府)に據りて帝と稱す後秦主苻生亦長安に入りて帝と稱せり丕の族子登南安(甘肅昌州府)に在り丕の死を聞きて帝と稱す登屢後秦を伐ち後秦主苻生と戦ひて互に勝敗あり既にして苻生殂して太子興立つ興登を撃ちて之を殺す登の子崇湟中(甘肅鞏州府)に走りて帝と稱ししが遂に乞伏乾歸に殺されたり是に於て符氏全く亡びぬ乾歸は國仁の子にして國を秦と號せり是を西秦となす是歳西燕主永は後燕主垂に攻殺せられて國遂に亡びぬ後燕主垂太子寶に命して魏を伐たむ初め拓跋什翼健

後魏興る

の孫に珪といふ者あり代の滅ふるに當て尙幼なりしかは母賀氏珪を携て劉庫仁に依れり庫仁の子顯の立つに及て珪を殺さんとす珪乃賀蘭部に奔りて更に其舅に依れり既にして諸部の大人珪を推して代王となす尋て國號を魏と改めぬ是を後魏の道武帝となす慕容寶の來り伐つに至て珪大に燕の兵を破る垂乃自ら將として魏を伐たんとし途に疾を得て死しぬ是に於て太子寶伐り立つ珪大舉して燕を伐ち遂に進て中山(直隸省定州)と圍む寶龍城へ出奔す時に燕の衛卒亂をなし龍城を攻陷せり寶乃復出奔せしか途より又龍城へ還り遂に蘭汗に弒せらる是に於て慕容盛蘭汗を殺して自立せり是歲慕容德滑臺(直隸省衛輝府)に據りて燕王と稱

後魏後燕を伐つ

南燕の興

後燕亡び北燕興る

後涼興る

す是を南燕となす德晋の地を略し廣固に據りて帝と稱す德殂して姪超立つ超遂に晋の劉裕に滅されたり是より先き後燕に内亂あり其主盛弒せられて其叔父熙伐り立ちしか馮跋又熙を弒して其養子雲と立つ尋て又雲を弒して自立せり是を北燕となす後燕の亡びしは南燕に先つと三年なり初め秦主堅其臣呂光として西域を討たしめしか堅の死するに及て光還りて涼州に據り遂に涼天王と稱せり(時慕容寶の位に即きし翌年なり)是を後涼となす時に秃髮烏孤(甘肅省西寧府)に起りて西平王と稱す烏孤卒して弟利鹿孤及び儂檀相つきて立ちしか儂檀更に涼王と稱せり是を南涼となす沮渠蒙遜後涼に背きて段業と奉して張

南凉北凉
西凉興る

掖(甘肅省)に據り業を涼王とせり是を北凉となす後蒙
遜業を弑して自立す又李暠といふ者あり燉煌(甘肅省)
に據りて涼公と稱せり是を西凉となす此の如く諸族
各地に割據して西邊の土も亦分裂するに至れり後涼
主光弼して子紹立ちしか庶兄纂紹を弑して自立せり
呂超又纂を弑して其兄隆を立つ時に沮渠蒙遜秃髮儁
檀互に兵を出して隆を攻めたりしかは隆迎を後秦に
請ふ後秦主興將を遣はして隆を迎へしむ隆遂に後秦
に降る是に於て後涼亡ひぬ蓋後燕の滅亡に先つと三
年なり其後西秦主乾歸歿して子熾盤立ち南凉を伐ち
て之を破る儁檀遂に西秦に歸せり是に於て南凉亡ひ
ぬ南燕の滅亡に後れたるを五年なり又一年を隔て

後凉亡ぶ

南凉亡ぶ

後秦亡ぶ

後秦主興卒して子泓立つ泓暗弱にして國內治まらざ
晋の劉裕の來り伐つに及て遂に出で降れり是に於て
後秦亡ひぬ
魏主睦の劉衛辰を攻殺するや其子勃々後秦に走れり
秦主興勃々をして朔方を鎮せしめしに勃々遂に秦に
背きて大夏天王と稱せり(後燕の亡ひたる)是を夏となす
劉裕後秦を亡し子義真を留めて還るに及て勃々進て
長安を取り遂に帝と稱す時に西凉主暠既に卒して子
歆位にあり歆北凉主蒙遜と戦ひて大敗し遂に蒙遜に
殺されたり是に於て西凉亡ひぬ後五年を経て夏主勃
々歿し太子昌立つ是時魏主珪既に歿し再傳して燕に
至れり燕屢夏と戦ひて遂に夏主昌を擒らす昌の弟定

夏の興起

西凉亡ぶ

西秦亡ぶ

夏亡ぶ

北燕北涼
亡ぶ

後魏北方
を一統す

平涼(甘肅省平涼府)に據りて帝と稱す時に西秦主熾盤卒して子暮末位に在り定暮末を攻めて之を破り遂に西秦を滅せり定又北涼を伐ちて其地を奪はんと謀りしに吐谷渾王に執へられて魏に送られたり是に於て夏亡びぬ是時に方て魏の勢甚強く遂に北燕を伐つ時に馮跋の弟弘位にありしが高麗に走りて殺されたり是に於て北燕亡びぬ魏又北涼を伐ちて其主牧健を降す牧健は蒙遜の子なり是に於て北涼亡びぬ魏又吐谷渾を逐ひ柔然を破り遂に北方を占領せり(時に宋の元嘉十六年也)是より北を北朝となし南を南朝となし南朝は宋より齊梁陳に傳へ北朝は魏分れて東魏西魏となり西魏は周隋に傳へ東魏は北齊に傳へたり周北齊を滅し隋周に伐り

て遂に陳を滅し南北を一統す此間を南北朝とはいふなり

(附)十六國表并序

晋の世戎狄(匈奴羯鮮卑氐羌)中原を亂しと百數十年に亘れり今其原因を尋ぬるに三要點あるが如し第一戎狄の内地に雜居せしと第二晋室に内亂ありしと第三戎狄に豪傑の輩出せしと是なり抑漢魏以來戎狄の來り降りし者は多く内地に雜居せしめたりしが年を経るがよきに漸く繁殖して其勢を逞うし屢忿恨によりて吏民を殺害せしと少なからず武帝の世郭欽上疏して内地の戎狄を邊地に移さんとを請へりしと帝以て意となさ

ず惠帝の時江統徒戎論を作りて朝廷を警めたり
 しも亦用ひられず是時晋に八王の亂ありて宗室
 相争ひ海内騷然たり是に於て匈奴には劉氏の如
 きあり氏種には李氏の如きあり各其釁に乗じて
 兵を起し國を建てて中原に割據せり其後晋に王
 敦蘇峻等の亂ありて中原を恢復するの力をかり
 しより又符氏慕容氏姚氏の如きもの更々起りて
 攘奪騷擾止む時をかりき嗚呼是彼の三原因の然
 らしめたる所なりと雖も亦漢人種衰へて異人種
 盛なる氣運なりといふべし今十六國表を左に掲
 く讀者若し之を一覽せば其興亡盛衰の跡に於て
 思半に過ぐる者あらん

國名	始祖	種族	興亡年代	滅したる國
前趙	劉淵	匈奴	九百八十四年興 九百八十九年亡	後趙
成漢	李雄	氏	九百六十七年興 九百七十四年亡	東晋
後趙	石勒	羯	九百一十七年興 九百三十七年亡	前燕
前涼	張駿	漢人	千九百〇〇年興 千九百〇五年亡	前秦
前燕	慕容皝	鮮卑	千九百〇三年興 千九百三十七年亡	前秦
前秦	符健	氏	千九百三十七年興 千九百四十二年亡	西秦
後燕	慕容垂	鮮卑	千九百四十二年興 千九百五十八年亡	北燕
後秦	姚萇	羌	千九百四十二年興 千九百五十八年亡	東晋
西秦	乞歸伏	鮮卑	千九百四十二年興 千九百五十八年亡	大夏
後涼	呂光	氏	千九百三十六年興 千九百四十二年亡	後秦
南燕	慕容德	鮮卑	千九百三十八年興 千九百四十二年亡	東晋

西涼	李暹	漢人	千〇〇六年	興亡	南涼
南涼	秃髮	鮮卑	千〇〇七年	興亡	西秦
北涼	沮渠	匈奴	千〇〇九年	興亡	後魏
大夏	赫連	匈奴	千〇〇九年	興亡	吐谷
北燕	馮跋	漢人	千〇〇九年	興亡	後魏

以て冉魏及び十六國燕中は加祚短く代は元魏めてなる或
 蒙は古帝人種に世し者氏を差指の如き鮮卑蓋匈奴羯羯人の種に属す
 紀元

兩晋大事年表

九百二十五年	紀元	晉の武帝位に即く
九百四十年	太康元年	吳を滅す
九百五十一年	元康元年	又賈后楊駿等を廢す

九百六十二年	永寧元年	趙八王倫の位を起す
九百六十四年	永興元年	劉淵漢成王都王稱す(前趙)
九百六十七年	永嘉元年	慕容廆興る
九百七十年	同五年	劉聰帝洛陽を移す
九百七十六年	興元四年	劉曜帝長安を移す
九百七十七年	太興元年	石勒晉の公と帝なる
九百八十二年	永昌元年	王敦反す
九百八十七年	咸和二年	蘇峻反す
九百八十九年	同三年	石勒翼前趙を亡す
九百九十三年	同八年	慕容皝死す
九百九十七年	咸康三年	慕容暉(前燕)王
千〇〇五年	永和元年	張駿(前涼)王

千〇〇七年	同四年	桓温成(漢)を滅す
千〇〇十年	同六年	冉閔石鑿を弑して自立す〇符洪三秦王と稱す
千〇十一年	同七年	後趙亡ぶ
千〇十二年	同八年	慕容儁帝と稱す(前秦)〇
千〇十四年	同十年	桓温秦を伐つ
千〇十七年	外平元	秦主苻堅に降る〇
千〇十八年	同二年	桓温燕を伐つ
千〇二十九年	太和四年	慕容垂秦に奔る
千〇三十年	同五年	苻堅燕を滅す
千〇三十三年	康元	桓温卒す
千〇三十六年	太元元	苻堅前凉を滅す
千〇四十二年	同七年	秦の呂光西域を伐つ

千〇四十三年	同八年	晋秦軍を肥水に破る〇慕容垂(後燕)乞伏國仁(西秦)兵を起す
千〇四十四年	同九年	姚萇(後秦)慕容仲(西燕)兵を起す〇呂光西域を平く
千〇四十五年	同十年	姚萇苻堅を殺す
千〇四十六年	同十一年	〇姚萇陸國を立つ(後魏)
千〇五十四年	同十九年	前秦西燕亡ぶ
千〇五十六年	同二十年	張貴妃孝武帝を弑す〇
千〇五十八年	隆安二年	慕容徳(南燕)と稱す
千〇五十九年	同三年	段業凉王と稱す(北凉)〇孫恩亂をなす〇呂光卒す
千〇六十年	同四年	李暠凉公と稱す(西凉)〇慕容徳帝と稱す
千〇六十二年	元興元	桓玄會稽王道子を殺す〇
千〇六十三年	同二年	姚興後凉を滅す〇
千〇六十七年	義熙三年	敎運勃々大夏天王と稱す〇徐道覆等亂をなす

千〇六十八年	同四年	馮跋後燕を亡し國を立つ(北燕)
千〇七十年	同六年	劉裕南燕を滅す
千〇七十一年	同七年	徐道覆等を平く
千〇七十四年	同十年	乞伏熾盤南涼を滅す
千〇七十七年	同十三年	劉裕後秦を滅す
千〇七十八年	同十四年	劉裕安帝を弒す
千〇八十年	元熙二年	劉裕晋を篡す

第三章 南朝

第一節 宋齊の沿革

劉裕既に晋を篡し國を建て、宋と號す是と高祖武皇帝といふ帝在位三年にして崩す太子義符立つ是と廢帝繁陽王となす徐羨之傅亮謝晦等遺詔を受けて政を輔く帝喪に居りて遊戯と事とし絶えて威容を失は是に於て徐羨之傅亮謝晦等相謀りて帝を廢し宜都王義隆と立つ是と太宗文皇帝といふ帝位に即きて徐羨之傅亮及び謝晦を殺せり初め魏主嗣屢兵を遣はして來り寇し滑臺を陥れ虎牢を拔きぬ帝乃到彦之をして北征せしめ虎牢滑臺及び瀋陽(山東省泰安府にあり)を取りしが魏復來り寇して瀋陽虎牢洛陽を取れり厥後王立謨帝に勸

徐傳の廢立

後魏の入寇

太子劬の弒逆

むるに大舉して魏を伐つを以てす帝沈慶之の諫と
 きかずして遂に立謨を遣はして福磁を取り又滑臺と
 圍ましめたり時に魏主嗣既に殂して子勳位にあり之
 と聞きて大に怒り自ら兵を將めて來り寇す兵凡百萬
 と號す鞞鞞の聲天地に振ふ立謨滑臺の圍を解きて退
 走す魏主進て江夏王義恭を彭城に圍み遂に瓜步江蘇
寧府六合に至り將に江を渡らんとすと聲言す建康今
江寧府都たりの人民荷擔して立つ既にして魏主群
 臣を瓜步山上に會し功を勞し賞を行ひて師を班す時
 に南兗徐兗豫青等の六州は悉く魏兵に蹂躪せられ殺
 掠せられたる者擧げて數ふ可からず是より國政大に
 衰へぬ帝太子劬を寵す後劬の無道なるを以て之を廢

廢帝の暴虐

せんとしたりしおは劬遂に帝を弒して自立す既にし
 て武陵王駿又劬を誅して自立せり是を世祖孝武皇帝
 といふ帝の世に方て南郡王義宣竟陵王誕等相尋て叛
 を謀りしが皆誅滅せられぬ帝在位十二年にして崩す
 太子業立つ是を廢帝となす帝淫虐暴戾なり恣に太宰
 義恭及び柳元景沈慶之等を殺し又諸父湘東王彧等と
 忌みて妄に無道となす是に於て晋安王子勳等兵を擧
 げて廢立を謀る既にして阮佃夫壽寂之等相謀りて帝
 を弒湘東王を立つ是を太宗明皇帝といふ子勳敢て
 兵を罷めむして遂に帝と稱す帝乃之を誅滅せり帝又
 兵を淮北に輝おさんとし魏兵と戦ひて利あらず悉淮
 北の地を失へり時に蕭道成淮陰を鎮して豪俊を収養

蕭道成の
興起

賓客甚盛なり道成は蘭陵の人深沈にして大量あり
又博學にして文を能くす南兗州の刺史となり又右衛
將軍となれり帝の病むに及て袁粲褚淵沈攸之等と共
に命を受けて機事を掌れり帝崩して太子昱立つ是を
後廢帝蒼梧王となす時に桂陽王休範兵を擧げて叛す
道成之を討滅して遂に中領軍となれり帝驕恣にして
殺虐を恣にす道成乃袁粲褚淵と廢立を謀りしに粲は
之を不可となし淵は黙して言はず道成遂に帝を弒し
て安成王準(休範の子)を立つ是を順皇帝といふ袁粲石頭城
に據りて道成を誅せんを謀りしが事成らざして殺
されたり沈攸之も兵を夏口に擧げて道成を討せしが
軍敗れて死しぬ是に於て道成相國齊公となり又爵を

宋の滅亡

進めて王となり遂に帝を弒して自立し國を建て、齊
と號せり是を齊の太祖高皇帝といふ宋凡八世五十九
年にして亡びぬ
齊の高皇帝位に在ると四年にして崩す太子曠立つ是
を世祖武皇帝といふ帝聰明にして能く斷ず在位の間
海内善く治れり帝終に臨みて蕭鸞に諸政を委す帝崩
して太孫昭業立つ是を廢帝鬱林王となす帝小人と親
近し大に無道を行ふ時に蕭鸞政を專にして異志あり
遂に兵を引て宮に入り帝を弒して新安王昭文を立つ
是を廢帝海陵王となす鸞多く高武の子孫を殺し遂に
帝を廢弒して自立せり是を高宗明皇帝といふ魏主弘
帝(孝文)の篡弒を聞きて大擧して入寇し鐘離壽陽(安徽)

蕭鸞の
弒

魏主弘
帝

後魏の入寇

陽州府等の城を攻めしが克たずして還りぬ既にして魏主復大舉して入寇し南陽河南府省新野南陽府の諸城を攻め遂に新野を抜き又南陽を下す齊の將裴叔業崔慧景等皆利あらざして退きぬ魏軍進て樊城湖北府省を圍み又義陽湖北府省を攻む叔業魏の渦陽江蘇州府を圍みて魏軍を縶す魏軍遂に義陽の圍を解く叔業乃義陽に入て之を保ちぬ是歳帝崩す太子寶卷立つ是を廢帝東昏侯となす魏主喪を伐たずと稱して還りぬ翌年陳顯達崔慧景魏を伐ち雍州の諸郡を復せんとす顯達遂に馬圈を抜き又南郷を破りしが魏主の自ら來り防くに及て皆敗走せり是より敢て兵を出して魏を攻めざりき帝蕭遙光始安王蕭坦之右將徐孝嗣尚書令劉瑄衛尉江昶右僕射

東昏の賊虐六貴の専恣

及昶の弟祀中侍等六人を寵用す時人之を六貴といふ既にして江昶兄弟帝を廢して遙光を立てんと謀り事顯はれて誅せらる遙光も亦兵を擧げて叛せしが事成らざして殺されたり徐光嗣劉瑄蕭坦之も亦相つきて殺されぬ帝嬉戯度なく賊虐日に甚し陳顯達兵を尋陽に擧げて建康を襲ひしが勝たずして敗死す裴叔業自ら安ぜずして魏に降る崔慧景も亦兵を率ゐて建康を圍みしが蕭懿に破られて死しぬ懿は豫州の刺史なり帝の召に應して入援し慧景を破りし功を以て尚書令となれり懿の弟衍伊霍の事を行ふを勸めしに懿さかすして殺されたり是に於て衍兵を襄陽に起す南康王寶融も亦兵を江陵に起して衍と相連和せり既にして

蕭衍の興起

寶融帝と稱す是を和帝といふ衍進て郢城を下し連勝の勢に乗して遂に建康を圍む時に王珍國等相謀て東昏侯を弒す衍遂に城に入りて人民を鎮す是より衍の勢甚盛にして政權悉其掌中にあり帝衍を以て相國となし梁公に封し又爵を進めて王となす帝姑熟に至りし時詔して位を衍に讓れり蓋衍の志なり衍乃國を建て梁と號す是を梁の高祖武皇帝といふ齊凡七世二十三年にして亡びぬ

第二節 梁陳の沿革

梁の武帝は齊の疎族なり齊の禪を受くるに及て大に齊の宗族を殺せり是に於て蕭寶寅逃れて魏に走り魏の兵を引て入寇す是より江北の地兵馬の區となり連

年驕然として民生を寧ぜず既にして魏大に亂れて東魏西魏となる侯景東魏の將となりて河南の地を鎮せり景初め爾朱榮の將たりしが高歡の榮を誅するに及て遂に歡に歸す歡終に臨みて其子澄に謂て曰く侯景は飛揚跋扈の志あり汝の能く御する所にあらず景に敵すべき者は唯慕容紹宗のみと紹宗は景の兵學の師なり歡卒して景果して西魏に降り又梁に附す帝景を河南王に封し蕭淵明を遣して東魏を討たしむ東魏乃慕容紹宗を遣はして拒戦せしめ遂に淵明を擒れし更に侯景を討つ景敗れて南走し梁の壽春に據る帝又以て南豫州の牧となす既にして東魏成を梁に求めたり傳岐帝に謂て曰く是れ景をして自ら疑はしめて亂を

景乃兵を擧げて叛し江を渡りて建康に逼る時に援軍
 皆景に破られて公私の人情洶洶たり景建康を圍みし
 五月にして遂に臺城を陥れぬ帝景に制せられて飲
 膳亦意の如くならず憂憤の餘疾をなして崩す(時ハ)
 在位凡四十八年なり太子統先を薨せしを以て
 其弟綱位に即く是を太宗簡文皇帝といふ帝亦制を
 侯景に受くるのみ是時湘東王繹は江陵にあり岳陽王
 譽は襄陽にあり河東王譽は長沙に在り互に攻戦を事
 せり繹遂に譽を攻殺し又譽を伐つ魯西魏へ降る西
 魏魯を封して梁王となす繹又王僧辨を遣はして建康
 に向はしむ侯景自ら出て僧辨と戦ひしが利あらず

諸王の争

侯景の死

建康に還りて帝を弑し豫章王棟を立つ既にして又其
 位を篡し自立して漢帝と稱す始興の太守陳霸先亦
 兵を起し王僧辨と力を合して景を討つ景戦破れて吳
 に走りしが遂に其下に殺されぬ是に於て湘東王位に
 即きて江陵に都す是を世祖元皇帝といふ時に高洋(高)
 東魏を篡して國を齊と號し江北の諸郡を奪領す西
 魏亦巴蜀の地方を侵略せり是を以て梁は僅に江南
 の地を保つのみ既にして西魏の兵來り寇して江陵を
 圍みしかば帝遂に出て降れり西魏乃梁王譽を江陵に
 移す魯尋て皇帝の位に即く是を後梁となす王僧辨陳
 朝先等建康にあり別に晋安王方智を奉して主となす
 齊の蕭淵明を送りて帝位に即かしめんとするに及て

西魏江陵を陥る

陳霸先の
興起梁の
滅亡

僧辨之と迎へて帝となし更に方智を以て太子となす
是に於て霸先僧辨を襲殺し淵明を廢して復方智を立
つ是を敬皇帝といふ帝霸先を相國となし陳公に封し
又爵を進めて王となす霸先遂に帝の讓を受く是を陳
の高祖武皇帝といふ梁凡四世五十六年にして亡びぬ
是歳西魏も亦周に篡せられぬ

宣帝の北
伐

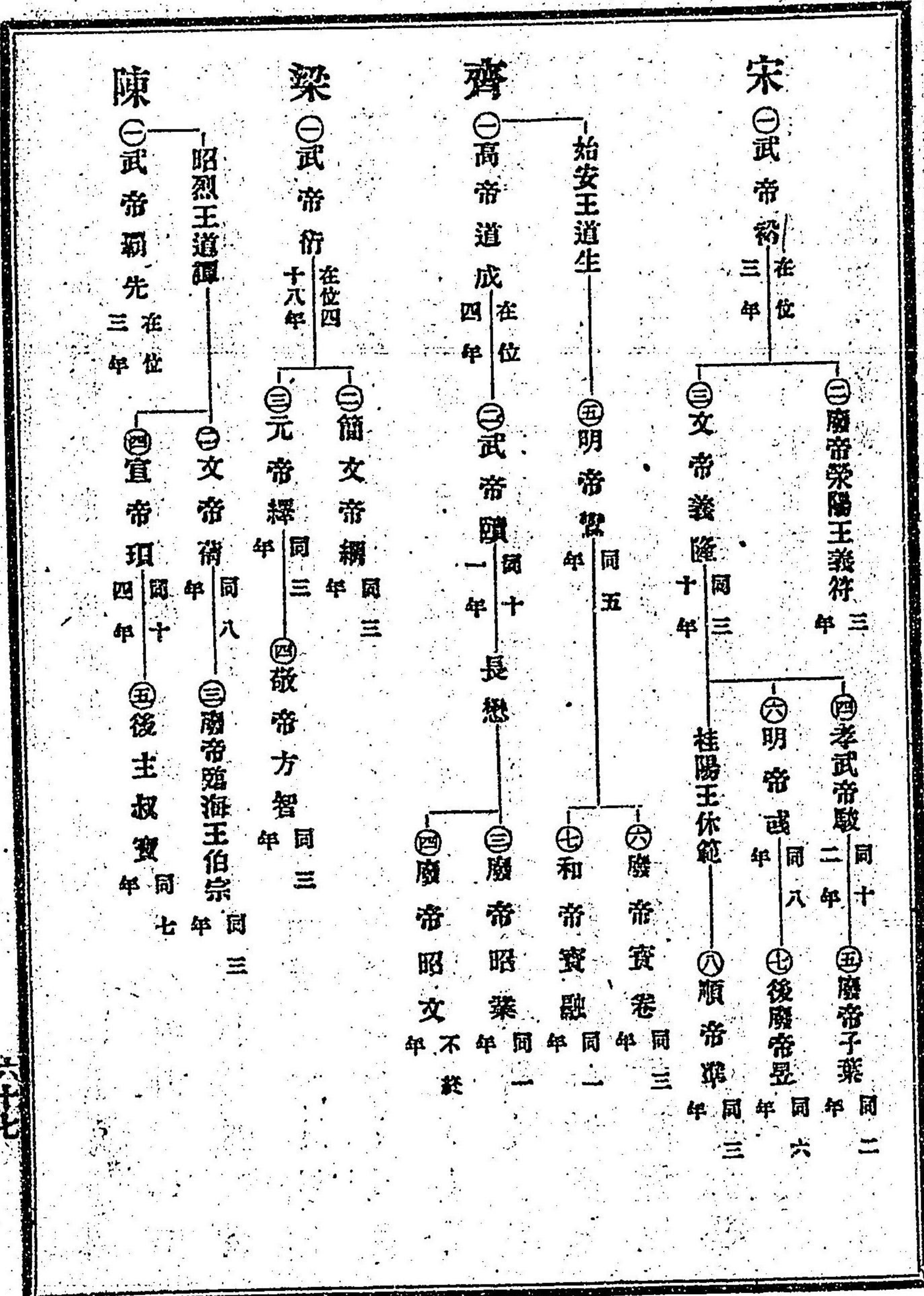
陳の武帝在位三年にて崩す姪臨川王蒨立つ是を世祖
文帝といふ帝艱難より起りて細に民の疾苦を知り
性又明察勤儉なり在位七年にして崩し太子伯宗立つ
是を廢帝臨海王となす帝在位三年にして安成王顛に
廢せらる顛遂に自立して帝となりぬ是を高宗宣皇帝
といふ帝北齊の乱に乗し將を遣はして江北の數郡を

後主の昏
悖

取り又周の齊を滅すに當て徐兗の地を争はんとして
北伐したりしが却て周に破られたり帝在位十四年に
して崩す太子叔寶立つ是を後主長城公となす帝荒淫
甚しく臨春結綺望仙の三閣を作り自ら臨春に居り張
貴妃として結綺に居らしめ龔貴嬪と孔貴嬪ととして
望仙に居らしめぬ又宮人表大捨等を女學士となし江
総孔範等を狎客となし共に詩を賦して樂となせり帝
の宮室を營みしより府庫缺乏して國用足らざる初め軍
人士人は關市の税を除きしが遂に士民を論ぜずして
其税を徴し酷吏専ら督責となし大に聚斂を行へり是
に於て士民皆嗟怨するに至りぬ又孔範自ら文武の才
能人に超えたりと稱し外間の諸將を以て匹夫の敵と

なす帝も亦然りとなし將帥少く過失あれば其兵を奪ひて文吏に配せり是に於て文武の臣悉く解躰しぬ時に隋の文帝周に代りて天下を一統する志あり既に後梁を伐て之を滅し又帝の不道なるを聞きて晋王廣を元帥となし賀若弼韓擒虎等を率ゐて來り討たしめたり帝曰く王氣此に在り彼れ何とかなさんと伎を奏し酒を縦にして毫も防禦の備をなさず賀若弼廣陵より江を渡り韓擒虎横江(安徽省和州にあり)より采石(安徽省太平府にあり)と濟り遂に建康に入りて帝を擒にせり陳凡五世三十二年にして亡びぬ是に至て南北始めて一に歸す時に紀元千二百四十八年なり

南朝の帝系



第四章 北朝

第一節 後魏の沿革附東魏西魏

後魏の創業

後魏は拓跋祿官の後なり道武帝跬初めて國を建て、魏と號す帝崩して長子嗣立つ是と明元帝といふ帝崩して太子燾立つ是と太武帝といふ帝柔然と却け大夏と破り南京北燕と滅し又宋と破りて徐兗等の六州と乱せり(第三章第一節)帝初め崔浩と親任したりしが後國書の罪を以て浩と殺し更に宗愛を用ひたり愛威權を專にして太子晃と隙あり依て竊に晃と譖す晃遂に憂を以て死しぬ帝晃の死と追悼して曰まを愛乃誅を懼れて帝を弑し南安王金と立つ既にして又金と弑せり是に於て群臣相謀りて晃の子濬と立つ是と文成帝

宗愛の弑逆

孝文帝の政治

といふ帝位に即きて宗愛を族誅せり帝在位十四年にして崩す太子弘立つ是と獻文帝といふ帝佛老の學を好みて夙に遺世の志あり在位五年にして位を太子宏に傳ふ時に宏年僅に五歳なり是と孝文帝といふ帝性至孝なり讀書を好みて文章を善くす在位の間佳政甚多し或は刑罰を軽くし或は貧窮を賑し或は民田と均くし或は戸籍を制し又學校を立て樂章を定め祀典を正くし同姓の婚姻を禁し籍田養老乞言の禮に至るまで舉行せざるはなし帝平城(山西平陽府の邊)の邊僻なるを以て南征に托して都を洛陽に遷し遂に胡服と廢し胡語を禁し國姓を改めて元となし又諸の複姓と改めて單姓となし諸弟として中州の名族を娶りて

前妻と妾媵となさしめ又多く中州の儒生名族を親近したり是に於て宗室勳舊に悦ばざる者多く或は胡服を着げて舊都に歸らんとせし者あり或は舊土を戀ひて叛を謀りし者あり是時魏の勢は極めて盛なりきと雖も慄悍勇武の風變して漸く優柔文弱の俗となり暗に他日の衰を兆せりといふ

帝海内を一統せんと欲して屢宋を伐ちしが遂に志を得ずして崩しぬ(第三章第一節)在位二十九年なり子恪立つ是を宣武帝といふ帝宗室を疎忌し佞倖を信用す魏の政始めて衰へぬ帝在位十六年にして崩す太子翊立つ是を孝明帝といふ帝年尚幼なるを以て母胡太后制を稱す時に將軍張彞の子仲瑀上書して武夫を排抑

魏政始めて衰ふ

宿衛の亂

すべきと云ふ宿衛の士之を聞きて大に怒り相共に尙書省に至りて瓦石を投し遂に彞の第に至りて其舎を焚き彞の父子を火中に投す仲瑀は重傷を負ひて走り免れしが彞は遂に死しぬ太后其凶強八人を斬りて其餘を赦せり懷朔鎮の函使高歡之を見て家に歸り資を傾けて客を結ふ曰く宿衛相率めて大臣の第を焚くも敢て禁討する者なし天下の事知るべきなりと既にして太后の妹婿元又太后を幽して政を專れす太后又を誅して再政を執れり時に内は嬖倖事を用ひ外は盜賊亂となし魏の政益衰へぬ

魏政益衰ふ

秀容の酋長爾朱榮賊を討したる功を以て六州の大都督となり強兵を擁して晋陽にあり高歡竊に榮に勸む

爾朱榮の
始末

るに兵を擧げて帝側を清めんとを以てす太后の帝を
殺して元釗宣武帝の姪と立つるに及て榮遂に兵を擧げ
て洛陽に至り太后と釗とを殺し長樂王子攸孝文帝の姪と
立つ是を孝莊帝といふ榮太傅となり尋て晋陽に還れ
り時に北海王顥梁に走り梁將と共に洛陽に入りて帝
と河内に追ふ榮乃晋陽を發して顥を撃破し帝を洛陽
に還せり榮天柱大將軍となりて竊に異圖あり帝其入
謁するに方て親ら之を刺殺す是に於て榮の族爾朱世
隆爾朱兆と共に長廣王暉を立て洛陽に入りて帝を弑
す既にして又暉を弑して廣陵王恭を立て是を節閔帝
といふ高歡兵を起して爾朱氏を誅し又帝を廢して平
陽王脩を立て是を孝武皇帝といふ歡大丞相となりて

高歡の興
起

魏東西に
分る

晋陽に居りぬ既にして帝晋陽を伐たんと謀りしか
は歡兵を擁して洛陽に向ふ帝大に畏れて長安に出奔
し關西の大都督宇文泰に依れり泰曾て爾朱榮の統軍
となりしか後秦隴の亂を定めて關西の大都督となれ
り是に至て帝を奉して長安に都す歡別に清河王世の
子善見を立て、鄴に都す是を孝靜帝といふ是より西
を西魏となし東を東魏となし魏全く東西に分れたり
道武帝より是に至るまで凡十二世百四十九年也
東魏の孝靜帝は孝文帝の孫なり帝高歡を以て丞相と
なす歡政權を專にし屢西魏の宇文泰と戦ひて互に勝
敗あり歡卒して子澄嗣く澄大將軍となり竊に禪を受
くるを謀りしが遂に其下に殺されぬ是に於て弟洋嗣

高氏の專
恣東魏の
滅亡

きて丞相齊王となり遂に東魏の位を篡せり是を北齊の文宣帝といふ東魏國を立つると凡十七年にして亡びぬ

西魏の孝武帝既に長安に入りて宇文泰と隙あり泰乃帝を弑して孝文帝の曾孫寶炬を立つ是を文皇帝と云ふ秦太師となりて諸政を總攬し蘇綽を用ひて尙書となし姫周の法によりて六官を定め又計帳戸籍を製し府兵の法を作り文物燦然たり既にして帝崩して太子欽立つ欽泰を殺さんと謀る泰乃欽を廢して其弟廓と立つ是を恭帝といふ泰の卒するに及て子覺嗣きて周公となる時に宇文護(泰の兄)帝に逼りて位を覺に讓らしめたり是を北周の孝閔帝といふ西魏凡四世二十

宇文泰の事業及西魏の滅亡

四年にして亡びぬ

第二節

齊周の沿革

(此家齊を稱して北齊となし周を稱して後齊と區別せり)

齊の文宣帝は高歡の子なり初め心を政術に留め法を以て群下を御し又軍陳に臨む毎に親ら矢石を冒して克捷する所ありしが後其功業に矜り宮室を作り酒色を縱にし兇虐暴行甚しく遂に其弟永安王俊と上黨王渙とを幽殺し又魏の宗室七百餘人を殘害したり然れとも政を楊愔に委任したりしかは愔心を悉して治をなせり故に時人皆曰く主上に暗きも政下に清めりと帝在位十年にして崩す太子殷立つ是を廢帝濟南王となす時に楊愔猶機政を掌りしが帝の叔父常山王演弟

文宣の狂暴

常山王の
自立

姦臣の事
横解律光
の死

長廣王湛と相謀りて愷を殺しぬ既にして演帝を廢して自立す是を孝昭帝といふ帝賦税を軽くし民瘼を求め又廣く賢才を徵し大に文宣の弊を改めたり帝弟湛を以て太弟となすを許し更に子百年を立て、太子となしたりしか帝の崩するに及て湛百年に代りて自立す是を武成帝といふ帝在位四年にして位を太子緯に譲りて太上皇帝と稱す初め周の楊忠突厥と共に來り寇して志を得ず後宇文護又大兵を督して洛陽を攻めしが大に斛律光に破られたり光忠誠にして勇略あり隱然齊の重となせり時に和士開事を用ひて政を亂り遂に王子儼に殺さる是に於て祖璉士開に代りて政となせり璉最姦佞にして權略あり程令宣等と相結び

周の兵齊
を滅す

宇文護の
専恣

て姦となし斛律光と隙あり遂に譖して光を殺す周人光の死を聞きて大に喜べり帝昏迷にして淫遊を事とし群姦益威福を恣にせり時に陳の兵來寇して淮北の地を侵畧す齊軍拒き戦ひて敗績し國勢益衰へぬ既にして周の武帝大舉して來寇し晋陽を取り進て鄴を圍む帝位を太子恒に傳へて出奔したりしが遂に追獲せられたり齊凡五世三十年にして亡びぬ
周の孝愍帝は宇文泰の子なり帝宇文護を大家宰となし晋公に封す護權を專にして驕恣なり帝乃護を誅せんとす護遂に帝を弑して其庶兄毓を立つ是を明帝といふ帝明敏にして識量ありしかは護又帝を弑して其弟邕を立つ是を武帝といふ時に護益威福を專にして

周 ①孝愍帝覺 在位不終年
 ②明帝毓 同四年
 ③武帝邕 同十八年 ④宣帝贊 同二年 ⑤靜帝闡 同二年

南北朝大事年表

紀元	南朝	北朝
千八百二十二年	宋の武帝崩す	
千九十一年		西秦夏を亡し魏西秦を亡す
千九十五年		魏北燕を亡す
千九十九年	宋文帝魏を侵す	魏北涼を亡す
千百十年	宋太子邵文帝を弑す	魏崔浩を殺す
千百十三年		

千百三十一年	蕭道成散騎常侍となる	孝文帝立つ
千百三十三年	桂陽王休範反す	門房の誅を廢す
千百三十九年	蕭道成宋を篡す	律令を制す
千百四十五年		均田の法を頒つ
千百五十三年	蕭鸞自立す	都を洛陽に移す
千百六十二年	梁の武帝立つ	翌年梁を伐つ
千百八十年	達摩來る	爾朱榮廢立をなす
千百八十八年		高歡兵を起す
千百九十年		魏分れて東西となる
千百九十四年		
千二百七年	侯景降る	高歡卒す
千二百九年	侯景臺城を陥る	

千二百十年
 千二百十六年
 千二百十七年
 千二百二十年
 千二百三十二年
 千二百三十七年
 千二百四十一年
 千二百四十八年

陳の武帝立つ

文帝立つ

陳亡ぶ

高洋東魏を篡す○宇文泰府兵の法を立つ

宇文泰死す

宇文覺西魏を篡す

宇文護君を弒す

齊周の兵を破る○斛律光を殺す

周齊を滅す

隋の文帝周を篡す

隋天下を一統す

第五章 兩晋南北朝の開化

第一節 制度

(官制) 晋の世には太宰太傅太保太尉司徒司空大司馬大將軍と八公となし中書尚書門下の三省と太常光祿勳衛尉太僕廷尉大鴻臚宗正太司農少府の九卿とを置き諸政を分理せしめたり中書には監令等ありて詔勅等の事を掌り尚書には令僕射右左及ひ列曹の尚書ありて庶務を掌り門下には侍中侍郎等ありて侍從擯相等の事を掌り後漢の初めより尚書の權甚重くなりしが魏の時には其權力移りて中書に歸し東晋の時には中書の權力又移りて門下に歸するに至れり又地方の官は郡に太守あり(河南は殊に尹と稱す)諸王國に内史あり大

縣に令あり小縣に長ありり共に京外を始めたり南朝は大概晋に倣ひて八公を置き九卿を建て又三省の外に秘書集書の二省を置きたり

北朝は後魏の初めには別に臺省の設をかりしが道武帝の時に及て始めて臺省を設けたり後孝文帝の時更に官制を改めて悉く南朝の制に準したり北齊は後魏の制によりしも北周は周官の制により冢宰司徒宗伯等の六官を設けて諸政を分掌せしめたり但刺史の如き外官は大抵漢魏の舊に依れりといふ

兵制

(兵制) 西晋の初めは京師に二衛七軍を置き又州郡にも各兵を置きたりしか吳を平けし後は大に州郡の兵を減し纔に大郡に武吏百人小郡に五十人を置きし

み是を以て寇賊を制する能はむ海内遂に大に亂るるに至れり東晋に至ては州鎮の勢甚重く刺史にして兵權を握りしと猶縣知事の鎮臺司令長官を兼ねたるに異ならむ南北朝の時及て西魏の宇文泰大に兵制を改めたり國內に百府を設けて二十四軍に分屬せしめ郎將一人一府を領し開府一人一軍を領



(東晋永昌槍)

し大將軍一人二軍を領し柱國一人四軍を領し加持節都督一人二十四軍を領するなり是を隋唐府兵の基となす

田制税法

(田制) 晋の世は男女年十六より六十に至るを正丁となし餘を次丁となす丁男は田五十畝を課し丁女は二十畝を課し次丁の男は正丁の半を課し次丁の女は課せむ又丁男は毎歳絹三匹綿三斤を出し丁女と次丁の男とは其牛を出したり

南朝歴代は晋の制と大差なし北朝は後魏の時均田の法を行ひて丁男は露田四十畝丁女は二十畝を課し又別に桑田二十畝を課す凡十八にて田を受け六十にて還すと例となし毎年一月と還受の期となせり(桑田は還受の)

(北齊の時) 北齊の時は丁男は露田八十畝丁女は四十畝を課し又別に永業田二十畝を課す一夫一婦より絹一匹綿八兩粟二石五斗を出すと例とす後周の時は百四十畝の田を課して毎歳一室より絹一匹綿八兩粟五斛を出さしめたりといふ(後周の時) 更に入門税入市税あり又酒坊井は皆百姓の探

法制

(法制) 西晋の時魏制の峻密に過ぐるを以て大に律令を改定し族誅從坐等の條を減したり後東晋の時に屢内刑を復するの議ありしが遂に行はれず南朝歴代は大抵晋制によれり然れども北朝は大に異なる所あり後魏の初めは別に律文なく唯大人の官罪人を參決し其刑を執行するにも亦大に慘酷を極めたり例へば斬

罪の刑に處せらるゝ者は裸躰にて質に伏するが如き
 と是なり然るに孝文帝の時に至て大に刑罰を寛にし
 大逆外叛の外は刑を其身に止め又門房の誅を除きた
 り是より刑罰稍寛なるに至れり然るに後周の時に刑
 書要制を頒ちて盜賊一匹以上の者正長にして五丁以
 上を隠し又は地一頃以上を隠す者は皆死刑に處した
 り爾後用法益峻なりしが隋の周に代るに及て今古と
 斟酌して法律を改定し遂に後世の標準となれり
 南北朝の際には死刑に五種ありて罄絞斬梟裂といふ
 又別に流徙鞭笞等の刑ありて並び行はれたりといふ
 (選舉) 西晋の初めは猶魏の制によりて人を取りしが
 後漸く門閥を尙ぶに至りて寒流の者は上位に擧げら

選舉

るゝと稀なりき東晋の初は策試をなさざして孝廉秀
 才と擧げたりしが後又經を試むることなれり宋の世
 にも亦策試によりて州毎に秀才と擧げ郡毎に孝廉と
 擧げしめたり梁の時には州に州重と置き郡に郡崇と
 置き郷に郷豪と置き各搜薦を典らしめ後又諸州に
 中正を置き選舉をさしめたり
 後魏の世には州郡に中正を置き選舉を掌らしめし
 と猶魏晋の如し又北周も孝廉秀才と擧げて明經修行
 の者と孝廉となし高才博學の者と秀才となしたり
 第二節 學術
 晋の武帝の時始めて國學を起し元帝の時又大に校舍
 を修めて諸經博士を置きたりしが穆帝の時に至て遂

學校の沿革

に廢滅せり其後宋の時復國學を起したりしが忽にして之を廢し別に立史文儒の四科を設けたり梁に及て武帝又國學を興し博士を置きたりしが晩年佛法を尊信するに至りて學校大に衰ふるに至れり
後魏は道武帝の時大學を立てて五經博士を置き獻文帝の時又鄉學を建てて郡に博士を置きたり孝文帝の時益學校を重し明堂辟雍等を建てたりしが内亂の紛起するに及て又廢頽するに至れり當時學校の盛衰は諸般の學術に悉く關係せずと雖も經學の隆替は大なる關係を有せり

經學

(經學) 後漢の末に鄭立經學を以て門徒に教授したるより門下の士著述の書甚多く又學校に於ては經書を

主として教授したりしかは幸に其緒を斷つに至らざる然れとも南朝は詞學を先にして經學を後にしたるより習業者稍少なし唯齊の王儉禮樂春秋に通したるを以て用ひられしかは當時經學稍振ひたり梁の時に至ても學者間出し崔伏何嚴等の如き經學を以て用ひられたる者あり陳の時の經學者は皆梁の遺儒なりしと云ふ

北朝は後魏の時に徐遵明三禮に明なるを以て知られたり盧景裕崔瑾李周仁李鉉熊安生の徒は皆其門人なり周隋の間には劉炫劉焯を以て經學の大宗となす當時稱して二劉といへり
晋後の諸儒は南北に分れて其嗜好せし所の經說各同

史學

しからば南朝は王輔嗣の周易、孔安國の尚書、杜預の左傳を奉し、北朝は鄭玄の周易、服虔の左傳を重したり。唯毛萇の詩經、鄭玄の三禮は南北共に遵奉したる者なりとす。

(史學) 司馬遷、班固の後史を修めたる者多し。と雖も後漢書、三國志を以て最となす。初め晋の時に司馬彪續漢書を作り、華嶠後漢書を作りしが、晋の亂に逢ひて皆亡びぬ。是に於て宋の范曄學徒を召集し、群籍を究覽し、後漢の光武より獻帝までの事蹟を編述し、十紀十志八十一列傳を作り、是即今の後漢書なり。

三國志は晋の陳壽の作なり。魏は四紀二十六列傳、蜀は十五列傳、吳は二十列傳、凡六十五篇あり。叙事簡明にして

詞學

て文章純潔なるを史記、漢書に亞くべき者とす。又孫盛の魏春秋、王隱の蜀記、張勃の吳錄、習鑿齒の漢晋春秋等ありしも、獨三國志のみ今日に傳れり。(宋の時裴松之注を作れり是を著名なる裴注とす)其他沈約の宋書、魏收の後魏書の如きも亦歴史として觀るべき者とす。

(詞學) 文章は漢魏の際より既に綺靡に陥りたりしが、兩晋より南北朝に至て益華麗を尙ぶに至れり。蓋聲律排偶を尙ひしと支那歷代にて此時を最盛なりとなす。故に當時の文章を評して一韻の奇を競ひ一字の巧を爭ひ、篇を連れ牘を累ぬるも月露の形を出でず、案に積み箱に盈つる者は盡く風雲の状なりといふ者あるに至れり。然れども詩歌は高雅曲麗にして文章の如く浮

靡ならず殊に五言排律の如きは當時始めて起りたる者にて最観るべき者なり
兩晋南北朝の間に詞藻を以て知られたる者は前後其人に乏しからず晋の世には陸機、陸雲、嵇康、潘岳、左思、袁宏、陶淵明等を最となし南朝には宋の謝靈運、謝惠連、顏延之、齊の謝朓、江淹、梁の沈約、范雲、任昉、陳の徐陵等の如きあり北朝には魏の崔浩、周の王褒、庾信等の如きあり共に著名なる者とす

音學

(音學) 晋の時に及て反切の學起れり反切とは兩字の音を約して一字の音を顯すなり蓋西域より來りし者にて孫炎の傳へたる者なりといふ又齊梁の際に四聲の説行はれて平上去入を以て字音を分ちたり後世四

聲は沈約の創めたる者なりといへとも當時沈約の外に四聲に關する書を著したる者少なからざる蓋文章既に聲律を尙ひたれば四聲の説の起るは當然の勢なりといふべし

天文曆法

(天文曆法) 天文曆法の事に關しては東晋の時虞喜の歲差を論したるにあり凡古來の曆法にて三歲に一閏五歲に再閏十七年に七閏を置きて日月星辰の運行に出入なく同一なるを一章といふ然れとも猶些少の差ありて數年の後には冬至に日の在る所同じからざる是を歲差といふ虞喜之を算して五十年にて一度と差ふといひり然るに宋の何承天は百年にて一度と差ふといひ隋の劉焯は七十五年にて一度と差ふといひり

第三節 宗教 佛教道教

佛教は漢魏の後兩晋を経て南北朝に至り碩德輩出して其盛を極めたり道教は後魏の世に至て大に行はれたり蓋此二教は當時の人心に影響を與へたるを少からざ

佛教

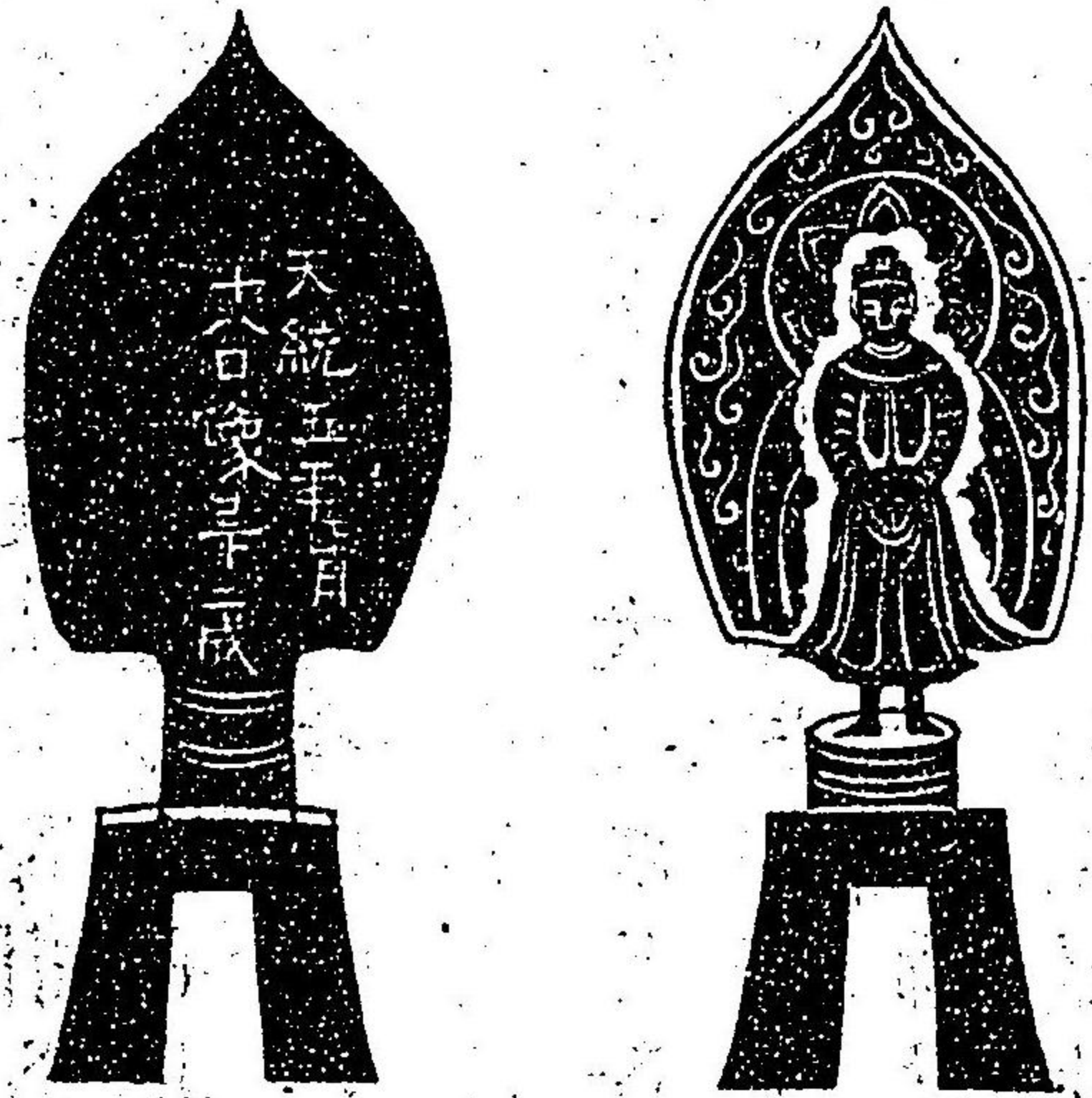
(佛教) 魏晋の際に印度の僧曇柯迦羅來りて戒律を譯したり是を戒律の出でたる始めとなす後常山に衛道安といふ者あり十二年の間靜室に獨坐して大に佛教の蘊奥を極む時に印度の僧佛圖澄來りて石勒に尊信せられしかば道安鄴に至りて佛圖澄に見え大に益を得たる所あり佛圖澄卒して後門徒を卒ぬて南遊し法汰を楊州に法和を蜀に遣はし又自ら慧遠と共に襄陽

に往きて布教に従事したり是より佛教各地に流行するに至れり道安卒して後二十年を経て西域の僧鳩摩羅什至る時に後秦主姚興佛教を信奉して大に羅什を尊信す羅什長安に住して道形道肇道恒曇影の徒と共に諸經を譯したり其辭義通明にして皆觀るべしといふ是に至て佛教益盛なり

後魏の初めに法顯といふ者天竺に遊びて大に經律を得て還り悉く之を譯したり是を魏の世に佛經を譯したる始めとなす太武帝涼州を平くに及て其地の佛徒内地に入りたる者多く又夏を平くに及て其僧惠始京師に至て士民を教導し佛教の勢頗盛なり既にして帝崔浩の言によりて道教を信し遂に佛像經文を焚きて

僧徒を坑殺す是を以て其
 一時盛なりし勢も大に頓
 挫せり後献文帝の時佛教
 の禁を解きて僧曇曜を沙
 門統となし、より其勢又
 漸盛なるに至れり曜印度
 の僧常那邪舍等と新經十
 四部を譯したり孝文帝も
 亦頗佛教を重して僧尼を
 度し寺院を起したる者少
 なからむ時に道登道順惠
 覺等並に敬重せられたり

佛の像の圖



(北齊の天統年間に作る所也)

當時京中には寺百ヶ所僧尼七千二百あり地方には寺六
 千四百七十八ヶ所僧尼七万七千二百五十八あり
 孝明帝の時僧惠生西域に使用して經論百七十部を得て
 還り之を天下に流布したり其後佛教益盛にして經典
 の數は四百十五部寺院の數は三万餘僧尼の數は殆二
 百万ありきといふ(北周の武帝の時其二教を禁じたり)
 又梁の武帝の時に印度の僧達摩來りしかば武帝屢宮
 中に召して共に佛理を談せり帝最佛教を信し曾て屢
 寺院に幸し身と捨てて福利を求め又宗廟の牲牢に易
 ふるに麴を以てしたる如きとあり然れども達摩帝
 の解脱し能はざるを知り去て魏に至りしが光統律師
 等に思まれて毒殺されたりといふ蓋梁の世は南朝に
 て佛教最盛の時なり

(道教) 道教は老子の學より出てたりと稱すれども頗其趣を異にす其說邪累を去りて心神を清め行を積みて功を樹て徳を累ねて善を増さは白日天上に上りて世に長生するを得べしと云ふにあり又天地の永劫を説くは佛説に類し金銀を化し符水を行ふに至ては巫術に類す且曰く張良の後に張道陵といふ者あり長生の術を講し蜀の鳴鶴山に入りて道書廿四篇を著はし遂に天に上れりと依て道陵を以て天師となす其荒誕不經なるを大抵此の如し魏の太武帝の時に寇謙之といふ者嵩山に隠れて道術を修めたりしが後帝に献するに録圖真經六十卷を以てす時に崔浩其説を信して謙之に師事し又其弟子四十餘人を召致して天師道場

を興したり帝も亦道場に至て符籙を受け遂に道教を揚げて佛教を抑するに至れり謙之の卒するに及て章文秀といふ者亦嵩山より召されて大に禮待を受けたり又北齊の時には張遠遊趙靜通の徒ありて共に厚遇せられたりといふ

第四節 技藝

(音楽) 西晋の初めは大抵漢魏の樂によりしが荀勗の音律を司るに及て新律を以て樂調を整へ正徳大悦の二舞を作れり後劉石の亂に伶官と樂器とは悉劫奪されて東晋の時には樂官を欠くに至れり後冉魏の亡びし時鄴中の樂人晋に來りし者あり復太樂を備へたり然れども未だ全きに至らざる前秦の前燕を亡し、時鄴

中の樂人は悉く秦に入りしか後前秦の敗類に及て其樂工楊最といふ者晋に來り音樂始めて具れり齊の時に郊廟の雅樂を定めて南郊名祭には群臣の出入に肅咸の樂を奏し牲の出入に引牲の樂を奏し籩豆毛血を薦むるに佳薦の樂を奏し神を迎奏するに昭夏の樂を奏する等の別あり北郊明堂の祭にも亦大同小異なりとす梁の時に及て武帝古樂を改めんと欲し學術に通ずる者に所見を述べしめしに唯樂の改むべきと言ひて改むる法と言はむ武帝依て自ら雅樂を定めたり是時樂律燦然として觀るべかりしといふ

北朝は後魏の太武帝夏を平けて古樂を得又西涼を平けて伶人樂器を得たりしが古樂の音制を傳習する者

なく聲曲多く亡びぬ孝文帝の時に音樂は未だ全きに至らず宣武帝の時劉芳音樂を司とり樂に明なる者と集めて教習し大に是非を參取せり然れとも其後胡聲を愛し屈茨琵琶五絃箜篌胡篋胡鼓銅鈸等の樂器を以て胡舞をなし琴瑟の如きは殆跡を絶つに至れり然るに北齊の時に及て祖珽大に音樂を改めて魏晋の舊に復したり又北周の時に六代の樂を作り雅音を定めて郊廟の樂をなし鐘律を創造せしと頗其宜しきを得たりと云ふ

書畫

(書畫) 太古の文字は古文と稱し周の時まで用ひ來りしか宣王の時に史籀といふ者大篆を作り秦の始皇の時に李斯小篆を作りたり又程邈王次仲の徒隸書八分

を作りて書體益増加し漢の世には又眞行草及び飛白の諸躰あるに至れり漢魏の間は杜度崔瓊張伯英羅叔景趙元嗣鐘繇の徒あり共に書を善くするを以て知られたり殊に蔡邕は八分飛白に善きを以て名を著したり東晋の時に至て書法益發達して能筆の士輩出せり就中王羲之を以て稱首となす羲之は王導の從子にて字を逸少といふ篆隸眞行草及び飛白等の諸躰に精妙なり故に稱して百家の能を總て衆躰の妙を備ふといへり其子獻之及び衛瓘索靖も亦書を善くせり殊に瓘は伯英の筋を得靖は伯英の肉を得たりといふ宋齊梁陳の間にも書を以て著れたる者少なからず繪畫は魏晋の世に至て大に進歩し晋の顧愷之戴逵の

信	智	禮	義	仁	古
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	大篆
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	小篆
信	智	禮	義	仁	隸書
信	智	禮	義	仁	八分
信	智	禮	義	仁	飛白
信	智	禮	義	仁	眞書
信	智	禮	義	仁	行書
信	智	禮	義	仁	草書

徒共に畫に巧なる名を得たり達の子起及び顯も亦父の藝を能せりといふ宋には陸探微あり善く人物を畫き又能く山水草木を寫し古今獨歩の稱あり其子綏及び宏肅も亦畫を能くせり梁には張僧繇あり善く相貌を傳へ又能く雲龍人物山水を畫きたり凡山水を畫くに先づ筆墨を以て鈎緣せずして邱壑巉巖を染出す法は(没骨皴)僧繇の創めし所なり其子善果儒童も亦畫を能くし佳致多きを以て知られたり又僧繇に次きて名ありし者を嵒寶鈞となす

第五節 産業

農業

(農業) 魏晋の際には力を水利に用ひたるを著し今其一例を擧ぐれば沛郡の地は水滂の患甚しかりしより

鄭渾の太守となるに及て坡場を興して大に稻田を開きたるにあり又燉煌の地は糶犂の用及び灌溉の法を知らざりしかば皇甫隆の太守となるに及て糶犂を作るとと灌溉をなすことを教へたり當時此の如きと甚多かりしを見れば牧民者の心を農業に用ひたるを知らるべきなり(江南の民は火耕水耨をなす)

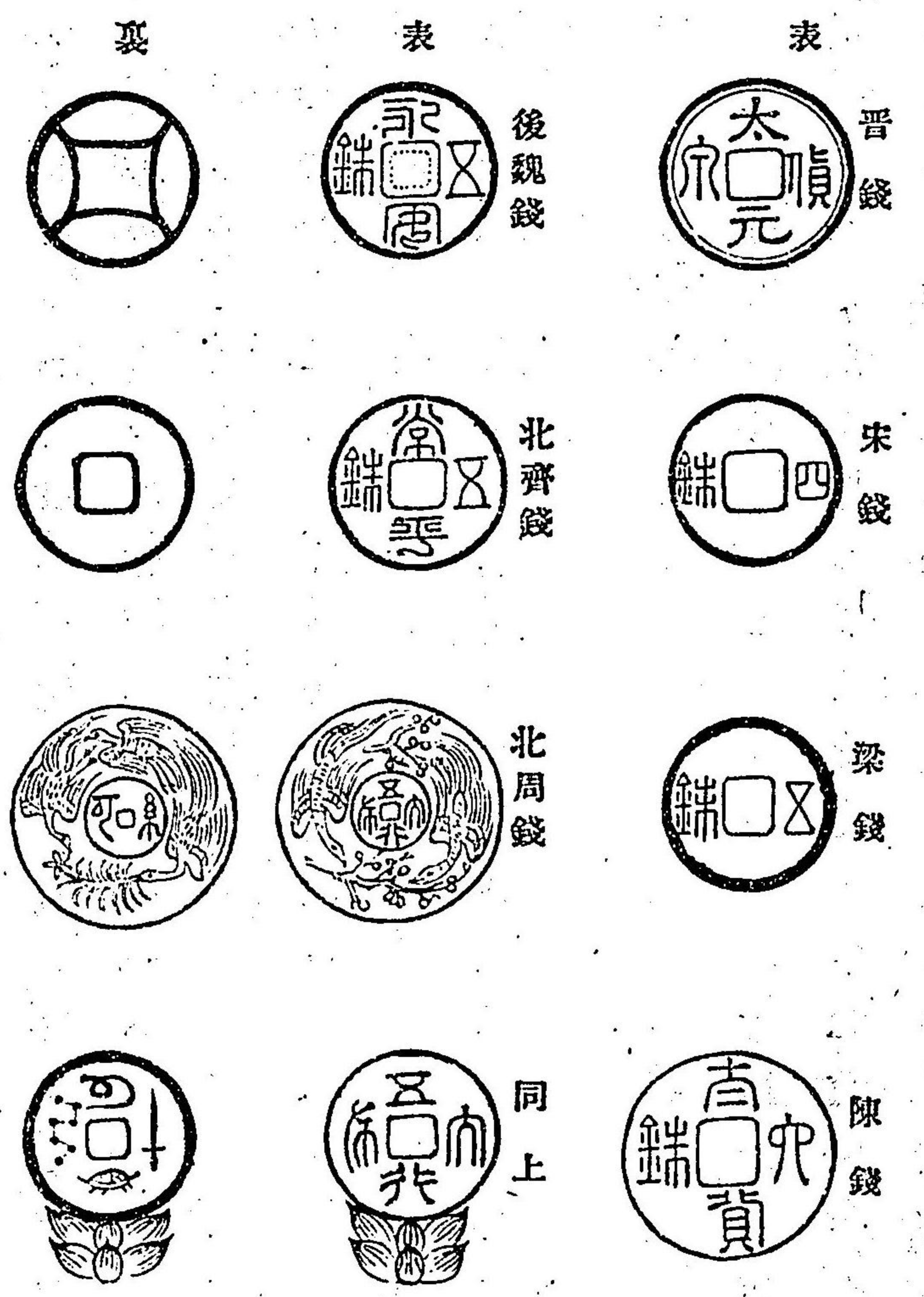
後魏の時は均田の制を布きて大に農業を奨励したり蓋毎歳春月には各郷土の早晩によりて農業を課し春より秋に至る間は男子年二十五以上の者として皆出て、田畝に就かしめ又桑蠶の月には婦女の年十五以上の者をして皆蠶桑を營よしめたり又家に牛ありて耕すべき人をき時或は耕すべき人ありて牛なき時は

互に相助けて地に遺利なく人に遊手なからしめ又縁邊の地の開墾するに堪へたる所は皆屯田を營み子使と置きて統督せしめ(一田子使の領する所)歳終に其所入と考へて褒貶をなしたりといふ

(商業) 幣附貨 東晋の時に亦商業に干渉するの風あり當時淮水の北に大市百餘所小市十餘所ありしが大市には官司を置きて税歛を課せしかば人民大に苦みたりといふ

晋の貨幣には大元貨泉等ありて賣買の媒介をなしたり梁の初め錢と通用する所は三吳荆江湘梁益の地に限り餘は大抵穀帛を用ひたり武帝乃五銖錢と鑄たりしが後銅錢と罷めて鐵錢と鑄るに及て之を私鑄する

貨幣之圖



者多く遂に七十又は三十五を以て百とする所あるに
至れり陳の時は兩柱錢鵝眼錢等を用ひたりしが嶺南
の諸州は尙鹽米布の類を用ひたりといふ
後魏の時に永安五銖錢を鑄北齊の初めには尙之を用
ひたりしが後更に常平五銖錢を鑄たり然れとも當時
冀州の北は尙絹布の類を用ひたり後周の時には魏の
五銖錢及び五行大布錢永通萬國錢等並に通用したり
といふ

第六節 風俗

氣質

〔氣質〕 魏の時に何晏王弼の徒老莊の説を祖述し清虛
の理を高談せしより晋の時に及て阮籍王衍樂廣の徒
出て更に清談を以て名を得たり故に當時後進の士

皆浮誕を以て高となし學者は老莊を尙ひて六經を斥
け談者は虚蕩を喜びて名檢を卑むに至れり宋齊を經
て梁陳に至りても亦此氣質は滅するに至らず然れと
も北朝は朔漠より起りて其風俗勇悍を尙ひしか故に
南朝とは大に異なる所あり隋の陳を滅すに及て清談
の風初めて滅びぬといふ

門閥

〔門閥〕 兩晋より南北朝の時に及て門閥を重する風盛
なりき仕官するにも豪貴の族は高位を取りて寒門の
士は卑官を受くる傾あり且名門貴家にては敢て卑族
と結婚せず又單門寒士は敢て世家と頡頏せざるの風
あり當時此風を改めんと企てたりし者ありしかと（後魏）
張嶷李冲李彪終に挽回するに能はず唐の世に至て

婚姻

も猶門閥を尙ふ風ありきといふ
 (婚姻) 婚姻の禮は別に舊に異なりたる所なし唯北朝にては早婚の風ありて男子年十三四に成れば結婚したる者少ならず(帝王)例へば後魏の献文帝の位を譲りし時は十八年にて既に五歳の子(孝文)あり又北齊の高儼の殺されたる時は十五年にて遺腹の子五人ありしといふ如きは其一斑を窺ふに足るべきなり
 (喪葬) 晋の世に至て相墓の術大に行はれたり當時郭璞最葬術を以て名あり故に後世郭璞を以て葬術の創始者と號す(郭璞は第二卷に述べてあり)爾後此術益盛にして宋には孔恭高靈文の徒ありて相墓を以て名を知られたり齊には唐寓之といふ者あり數世相墓を以て

喪葬

業となせりといふ亦以て當時相墓の術の盛なりしと見るべきなり

卜筮

(卜筮) 上古より龜を以て卜し蓍を以て筮する法ありしが南北朝の際に至て北朝にては金像を鑄て吉凶を卜する風盛に行はれたり例へば皇后を立てんとする時は必自ら金人を鑄せしめて成りし者は立て皇后となし成らざる者は立つるを得ず又位を纂せんとする時にも金人を鑄て吉凶を卜するとあり爾朱榮は己の像を鑄て成らざりしを以て位を纂するを止め高洋は金人を鑄て成りしを以て直に位を纂せしか如き是なり是蓋胡狄の風俗なり

車馬

(車馬) 周秦の時より天子宰相の往來するには大抵馬

車を用ひ來りしが南北朝の際には天子より士大夫に至るまで皆牛車に乗じたり間肩輿に乗せし者あれと牛車に比すれば甚少しとす其後唐の世に至ては百官馬に乗じて入朝するの風行はれて牛車は遂に廢絶たりといふ

頭飾衣服

兩晋及び南朝の人士は頭髮を結びたりしも北朝後魏の如きは蒙古地方より起りしが故に辮髮を以て頭飾となしたり衣服も南朝は逢衣寬袖を用ひたりしが北朝は窄袖寬袴を用ひたり然るに孝文帝の時に及て頭飾衣服の制を改めて悉く南朝の制によりぬ

年中行事

年中行事

年中行事の禮式は上古より存せし者もあり又兩漢の時に起りし者もあり今兩晋の世南方の地に

於ける年中行事の一斑を掲ぐべし

正月の元日には雞鳴に爆竹をなして惡鬼を辟け然る後に長幼衣冠を正くして新正を賀し椒柏酒屠蘇酒及び桃湯を飲み敷于散却鬼丸（共名に藥）と服し雞卵を食ふ又畫雞を戸上に帖し葦索を其上に懸け桃符を其傍に挿みて百鬼を畏らす七日は人日と稱し七種の菜を煮となし剪綵にて人を作り（或は金箔を用ふ）屏風に貼し又頭髮に戴く等の式あり十五日には豆羹を作り油膏を其上加へて門戸を祠り其夕には紫姑（名神）を迎へて將來の蠶桑を卜し併に衆事を占ふなり春分の日には民家並に戒花草を屋上に植す社日には四隣共に屋を樹下に造りて牲醪を設け先づ神を祭りて後に其胙を饗くる式

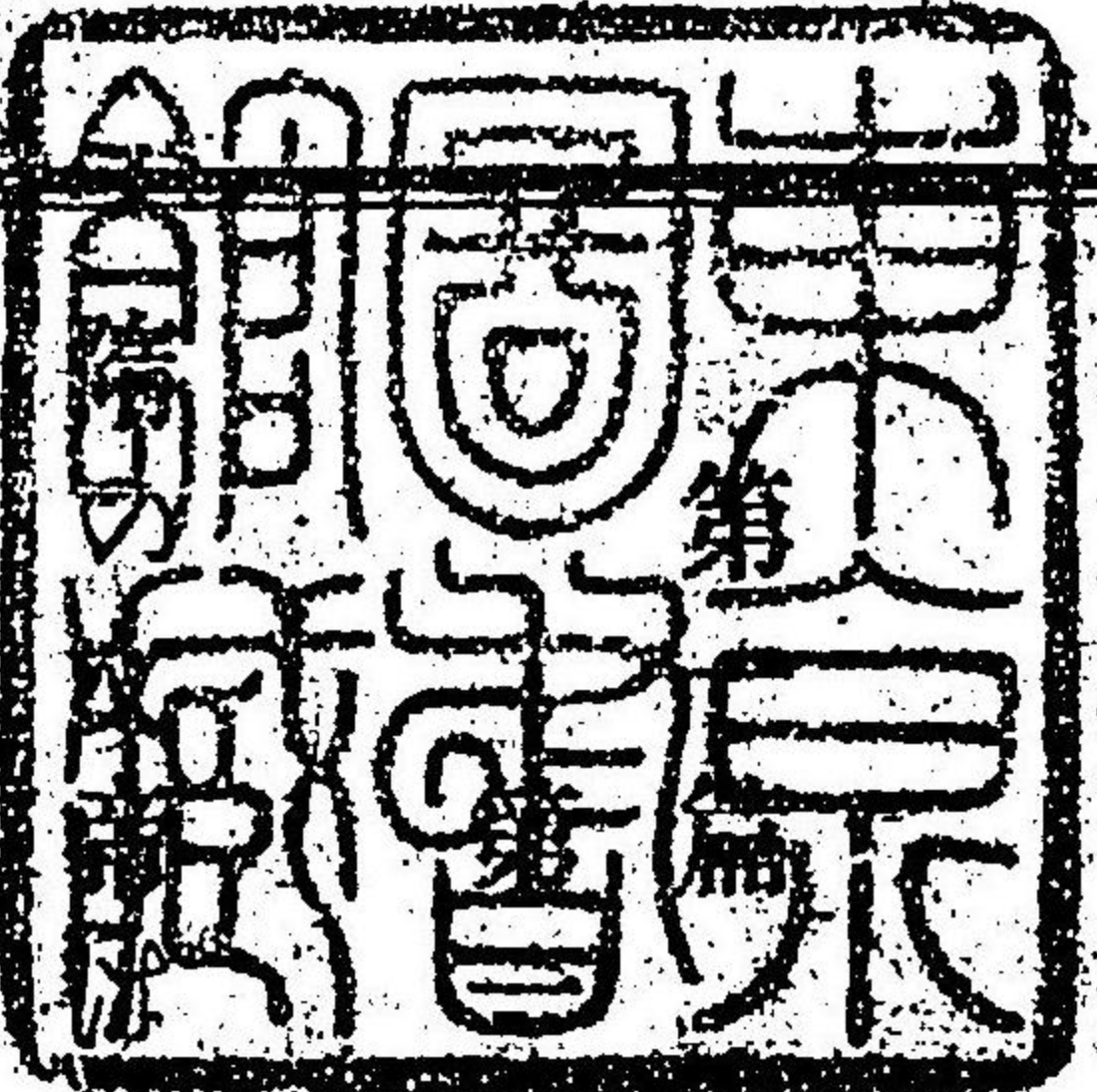
あり冬至後百六日と寒食と稱して火を禁ずると三日
 錫及ひ大麥粥と食ふ(或は清明前二日)三月三日には士
 民竝に江渚池沼の間に出て、曲水流杯の飲をなす(古
は三月上巳の日を以て禮を行ふに來りしが三國)五月五
 日は四民竝に百草を踏み又百草を鬪はず戯あり艾を
 採りて人となし門戸の上に懸けて毒氣を禳ふと稱す
 夏至の日には糶を食し又菊を取りて灰となし小麥の
 盞を止む六月伏日には湯餅を作り名つけて辟惡とい
 へり七月七日には牽牛織女の二星相會するの夜と稱
 し此夕人家の婦女は綵縷を結びて七孔の鍼を穿ち瓜
 果を庭中に陳して巧を乞ふなり十五日には盂蘭盆と
 稱し僧尼道俗を論せむ諸佛に供奉する禮あり八月十

四日には人民朱水を以て其兒の額に點し天灸と稱し
 て疾を厭す又錦綵を以て眼明囊となし遞に相餉遺す
 る禮あり(南北秋の禮には未九月九日には四民竝に野
た中秋の禮を見ず)九月九日には黍臛を設くる禮あり十
 二月八日は臘日と稱し村人竝に細腰鼓を撃ち胡頭を
 戴き金剛力士を作りて疫を追ふ又豚酒を以て竈神を
 祭る式あり歳暮には家々肴簞を具し宿歳の位に詣り
 て新年を迎へ遂に相集りて酣飲す是等の禮式は今日
 に至るまで猶行はれ居る者多しといふ

支那史卷二終

№ 62/2

支那史卷四



隋唐五代史

第一章 隋室の興廢

第一節 隋初の隆盛

陳を滅し遂に天下を一統せり帝性節儉にして太子勇の服用奢侈なるを悦ばず獨孤皇后も亦事によりて深く勇を惡めり勇の弟晋王廣自矯飾して嫡を奪ふの志あり后遂に帝に勸めて勇を廢し廣を立て太子となす帝病あるに及て廣を召す廣其不諱をはかり書を以

文帝太子を廢す

常陸 市村瓚次郎
出雲 瀧川龜太郎

合著



煬帝の即位

煬帝の奢侈

て後事を僕射楊素に問ふ宮人誤りて其書を帝の所に達す帝之を覽て大に悲る又其寵姫陳夫人を辱かしめんとしたるを聞きて益怒り將に故の太子勇を召して後事を托せんとす是に於て閩人として帝を弑せしめ又詔と稱して勇を殺し遂に自ら帝位に即きぬ是を煬皇帝といふ時に漢王諒河東河北の地を領して並州に在り帝の位に即くに及て兵を擧げて反す帝楊素をして之を討せしめ大に其軍を破りて諒を降しぬ是より帝益奢侈に耽り二百万人を役して東京(洛陽)を營み海内の嘉木異草珍禽奇獸を求めて苑囿に實つ又長安より江都に至る間に離宮四十餘所を設け或は洛陽に往き或は江都に往き或は北狩し或は西巡して概虚歳を

煬帝高麗を伐つ

ありき又前後通濟渠(西苑より穀洛水を引きて河水に入れ遠に淮水に達す)利溝(江蘇省揚州の淮安二府の境)永濟渠(沁水郡を引きて南衛河水に達す)江南河(杭州より江運河なり)等を開きて民を役したるを擧げて數ふ可からざり又二十餘万人を發して長城を築き又汾陽宮及び晋陽宮を造りたり或は天下の鷹師を徵し或は海内の樂師を集め毎歳巨萬の金を費すを常とせり帝既に突厥を服し林邑を平け吐谷渾を破り又高麗王を召しに王至らざり依て自ら將として之を伐たんとし先天下の兵として涿郡に會せしめ又河南淮南江南に敕して戎車五万乘を造りて衣甲を供載せしめ江淮以南の民として黎陽及び洛口諸倉の米を運せしむ往還する

者數萬人あり死者相枕す既にして涿郡に集りし者百
十三万人なり帝遼東に至り諸將を遣はして平壤を攻
めしめしに克たず大敗して還れり是に於て天下騷然
百姓相集りて盗をなし豪傑の士各地に蜂起するに至
りぬ

第二節 群雄の蜂起及び隋室の滅亡

帝一たび遼東に破れたりしが復兵を徵して高麗を討
ち遼東城を攻む城險にして抜く能はず時に楊玄感(楊素子)
督運となりて黎陽(河南府滎陽縣)に在り朝政の日に亂る
を見て遂に兵を擧げて反す帝軍を還し將を遣はし
て玄感を討つ玄感兵敗れて走死せり是に於て帝又涿
郡に往きて高麗を伐つ高麗使を遣はして降を請ふ帝

群雄の割
據

乃兵を引きて洛陽に還り又江都に巡遊せり
是の時に方て都陽の賊帥林士弘江南に據りて楚帝と
稱し杜伏威歷陽に據りて總管と稱す竇建德漳南(山東東
府昌)に在りて長樂王と稱す李密も亦群盜翟讓等と兵を
起して滎陽を下し遂に所部を統べて西行し興洛倉に
據りて自ら魏公と稱す朔方の郎將梁師都郡丞を殺し
て郡に據り遂に梁帝と稱し突厥と好を通ず馬邑の人
劉武周も亦太守を殺して自ら太守と稱す突厥武周と
立て、定陽可汗となし樓煩定襄等の諸郡を取る金城
の校尉薛舉兵を隴西(甘肅省
鞏昌府)に起して自ら西秦霸王と
稱し遂に秦帝と稱す武威の司馬李軌兵を河西(同蘭州
涼州)に起して涼王と稱す羅川の令蕭銑兵を巴陵(湖南
岳州)

李淵の興起

府州)に起して梁王と稱す而して唐公李淵も亦兵を大原
(山西)府)に起したり初め淵の父昞周に仕へて唐公に封
せらる淵も亦爵を嗣きて唐公となり隋に仕へて弘化
の留守となれり海内の亂るゝに及て山東の慰撫大使
となりて群盜を討捕す淵の次子世民隋室の方に亂れ
たるを見て窃に天下を安する志あり裴寂劉文靜と淵
に勸めて兵を擧げしむ淵遂に遠近の兵を召募し且劉
文靜を遣はして突厥の援を借る世民兵を引て西河(山西
省汾州)と破る淵又霍邑(山西平陽府)臨汾(山西平陽府)絳郡(山西絳州)等と下す既にして劉文靜突厥の兵を率ゐて至り韓城(陝州)と下す淵遂に諸軍を合して長安に入りぬ時に
煬帝江都に在り淵遂に帝を尊て太上皇となし別に代

宇文化及の弑逆

王侑を立つ是と恭帝といふ上皇江都に在りて荒淫益
甚く中原の既に亂れたるを見て北歸の心なし從駕の
士皆郷土を思ひて遂に反を謀り宇文化及を主となし
夜兵を引て宮中に入り上皇を縊り又悉宗室を殺し唯
秦王浩を立てゝ帝となす化及自ら大丞相となり衆を
擁して西す是時李淵の勢甚盛にして相國となり遂に
帝の禪を受く隋凡三世三十七年にして亡びぬ

隋の帝系

- 文帝堅 在位二十四年
- 煬帝廣 同十一年
- 恭帝侑 同一年
- 元徳太子昭

第二章 唐室の隆替

第一節 唐室の創業

李淵隋の禪を受けて位に即く是と唐の高祖皇帝といふ帝長子建成を立て、皇太子となし次子世民を秦王となし三子元吉を齊王となす是時に方て群雄各地に割據して天下尙未だ平ならず隋の王世充洛陽に在り越王侗を奉して帝となす宇文化及李密と戦ひて利ありを魏縣に至りて其立つる所の秦王浩を弑して自ら許帝と稱す涼王李軌河西に在りて帝と稱す秦王薛舉の子仁果父に嗣きて又帝と稱す蕭銑江陵に在りて帝と稱す劉武周梁師都も亦各北方に雄視せり竇建德河北の諸州を取りて夏王と稱し宇文化及を破りて之を殺

唐初の形勢

す王世充其主侗を廢して自ら鄭帝と稱す沈法興毗陵に據りて梁王と稱し李子通江都に據りて吳帝と稱す世民先つ西秦を伐ちて薛仁果を下す唐の將又河西を襲ひて李軌を執ふ世民又劉武周の將宋金剛を破る武周及び金剛皆走死せり世民又王世充を伐つ竇建德自ら兵を將めて世充を援ふ世民建德を逆擊して之を擒らし遂に世充を降せり既にして建德の故將劉黑闥又兵を漳南に起し尋て漢東王と稱す徐圓朗兵を擧げて黑闥に應し自ら魯王と稱す帝李靖として蕭銑を伐たしめて梁を平け又世民元吉として黑闥及び圓朗を討たしむ是より先き梁王沈法興吳主李子通に襲はれて走死す子通乃法興の地を併せて其勢甚盛なりき既に

社を稱す帝又魏徵を用ふ徵諫諍を以て顯る帝最驕侈を戒め即位の初に宮女三千人を出し後又三千人を出せり帝又刑罰を憫み曾て死囚三百九十人を縱遣し其來秋を期して死に就かしめしに期に至て皆歸り來り一人の逃れたる者なし帝遂に其死を赦したり是の時に方り海内昇平にして人民各其居に安せり故に後世治を稱する者は必貞觀を稱す貞觀は當時の年號なり帝善く國內を治めたるのみならず外國を服し版圖を開きたる古今に希なり初め突厥隋に服従したりしが唐の高祖の世に及て連年北邊に寇せり高祖乃諸將を遣はして拒戦せしめたるとあり帝の時に至て頡利突利の二可汗十餘万騎を合せて入寇す帝房玄齡等六

騎と渭水の上に至りて頡利を責む既にして諸軍繼ぎ至りしかば頡利大に懼れて盟をなして退きぬ其後頡利突利と隙あり又薛延陀回紇等頡利に叛く且人民大に飢えて羊馬多く死したるを以て其國勢大に衰へたり帝李靖等を遣はして之を討ち頡利を陰山に破り遂に之を擒にせり是時突利は既に入朝して唐の臣となり帝突利の地を分ちて四州となし頡利の地を分ちて六州となし左に定襄都督を置き右に雲中都督を置き其衆を統べしめたり又突利を順州の都督となし頡利を右衛大將軍となしぬ是の時に方て唐の勢威は四方の諸國を動かし奚霫室韋林邑高昌吐蕃康國等相續きて入貢せり帝段志玄を

吐谷渾吐
蕃高昌等
を下す

高麗を征
す

遣はして吐谷渾を討たしむ後李靖等之を平けぬ帝又吐蕃の叛けるを以て候君集に命して之を討たしむ吐蕃王罪を謝し且婚を請ふ帝遂に其請を許せり帝また君集として高昌を伐たしむ蓋高昌王の西域諸國朝貢の路を斷ち又西突厥と共に伊吾及び焉耆を攻めたるを以てなり君集遂に其王を擒にし又西突厥を降せり是に於て其地を西州廷州となし安西都護府を交河城(甘肅省吐魯番)に置きぬ

帝又親ら高麗を征す蓋高麗の泉蓋蘇文其君を弒し又新羅百濟入貢の路を斷ちたるを以てなり帝進て遼東城を拔き又白巖城(盛京省奉天府遼陽州の東北にあり)を降し遂に安市城(奉天府遼平縣の東北にあり)を攻めしに城險にして拔く能はず帝

薛延陀回
紇等を下
す

其地の寒氣早くして士馬久しく留り難く且糧の盡きんとするを以て師を班せり後再征せんとしたりしが遂に果さざりき

帝又江夏王道宗阿史那社爾等に命して薛延陀を征せしむ蓋薛延陀の高麗を征するに乘して屢入寇したるを以てなり時に回紇も亦僕骨同羅と共に薛延陀を攻めたりしかば其國中大に驚擾し國王は回紇に殺されて餘衆は逃遁せり帝後又李世勣に命して之を討平せしめたり是に於て回紇拔野古多濫葛同羅思結阿跌契苾跌結渾解薛等の十一姓皆入貢せり帝回紇を幹海府となし僕骨を金微府となし多濫葛を燕然府となし其他皆府或は州となし各其酋長として都督又は刺史た

らしめたり後燕然都護府今の内蒙古吳剛武と置きて
是等の府州を統べしめぬ

帝又王玄策を遣はして天竺に使せしめたり初め僧の
玄奘天竺より還りて具に其國狀を白す帝乃玄策を使
せしめしなり玄策の天竺に至るや其王兵を發して玄
策を攻む玄策吐蕃に奔りて其國兵と隣國との兵とを
徴し天竺を討ちて遂に其王を擒はす是に於て天竺大
に響振せり

天竺を伐つ

帝又阿史那社爾契苾何力等を遣はして突厥吐蕃吐谷
渾と兵を合せて龜茲を討たしむ社爾焉耆の西より龜
茲の北境に出て、遂に其王を擒はし大城五小城七百
餘を下す是に於て西域の諸國大に震駭せり帝又西突

龜茲を伐つ

厥の入朝せざるを以て高侃に命し回紇僕骨等の兵を
發して之を討ちたり是の時に方て唐の威令八荒に加
はり四夷皆來服せりといふ
帝在位二十三年にして崩しぬ初め帝子承乾を太子と
なす承乾不肖にして遊戯を事とす時に候君集功を恃
みて怨望し竊に叛を承乾に勸む既にして事顯はる帝
乃承乾を廢して庶人となし君集を誅し更に晋王治を
立て、太子となせり是に至て太子立つ是を高宗皇帝
といふ

第三節 武韋の專恣

高宗位に即きて長孫無忌褚遂良をして政を輔けしめ
たり帝太宗の才人武氏を立て、昭儀となす初め太宗

武氏宮に
入る

崩して武氏尼となりしが帝の世に及て皇后王氏の薦
にによりて後宮に入りぬ(善)王皇后蕭淑妃と武氏を争ひて
官に長せしめたるなり既にして武氏王后と誣告したりし
かば帝后を廢して武氏を立てんとす褚遂良等之を不
可とし李義府等之を可とす帝李勣に問ひしに勣曰く
是れ陛下の家事をり何る外人に問ふと要せんやと帝
遂に武氏を立て、皇后とし李義府を參知政事とし遂
に褚遂良長孫無忌等を貶したり後帝風眩を疾みて百
司の奏事を視ると能はむ依て武后をして裁決せしむ
后性明敏にして文史に涉獵し事を處するに皆旨に稱
ふ是に於て専ら政事を委したり帝賤妾の子忠を太子
となし、武后之を廢して其子弘を立て、弘后の意に

武氏皇后
となる

武氏廟立
を專にす

忤ひしかば又之を鳩して其次子賢を立て既にして又
賢を廢して其次子哲を立てたり帝在位三十四年にし
て崩す太子哲立つ是を中宗皇帝といふ帝章妃を立て
、后となし母武后を太后となす明年太后帝を廢して
廬陵王となし其弟旦を立つ旦虚器を擁するを七年政
皆太后の手にあり時に英公李敬業兵を揚州に起し太
后を討んとして敗死せり越王貞亦兵を擧げて匡復を
謀りしか成らず太后遂に大に唐の宗室を殺し自ら嬰
と名つけ皇帝と稱し國を周と號せり時に年六十七を
り帝初め僧の薛懷義を寵し後張易之張昌宗を寵す帝
内行の正しからざるを以て人の己を議せんを恐れ
て盛に告密の門を開きたり酷吏索元禮周興來俊臣等

武氏皇帝
と稱す

鍛鍊羅織して人を誅殺したるを擧げて數ふ可からず
然れども亦權數ありて善く人を用ひたり徐有功魏元
忠婁師德狄仁傑姚元崇皆當時の名相と稱せらる帝の
姪武三思の太子たらんとを求むるに方て仁傑從容と
して帝に謂て曰く太宗風に櫛り雨に沐し親ら鋒鏑を
冒して天下を定め之を子孫に傳へしに今乃他族に移
さんとするは不可なり且陛下子を立てなは永く太廟
に配食せらるべきも姪を立てなは太廟に祀せらるる
をなかるべしと帝依て廬陵王を召還して皇太子とな
し且を以て相王となしぬ帝曾て人物を仁傑に問ひし
に仁傑曰く張柬之といふ者あり老たりと雖も宰相の
才なりと仁傑の卒するに及て遂に柬之を用ひて相と

なせり既にして帝疾に寢す柬之乃崔玄暉桓彥範袁恕
已李多祚等と宮中に入りて易之昌宗を斬り帝を上陽
宮に遷し尊號を上りて則天大聖皇帝といふ帝遂に是
歳を以て崩しぬ十年三八凡唐を易へて周となし者十六
年なり是に於て廬陵王帝位に復し韋氏また皇后とな
れり帝の廢せらるるや韋后と艱苦を同くし好情甚密
なりしか是に至て后遂に朝政を與り聞くに至れり初
め張柬之等の二張を誅せし時武三思を除くことを勸め
たる者ありしかと聽かず既にして帝の女安樂公主武
三思の子崇訓に嫁せしより三思宮禁に出入して韋后
と通す帝之を知らずして三思と共に政事を議し遂に
柬之等の政を罷めて遠貶し又之を殺せり時に安樂公

章氏の淫
恣

主勢に乗して事を専らし周利用等五人皆三思の耳目
たり(五物と)既にして太子重俊李多祚と兵を發して三
思及び崇訓を殺し遂に宮を犯して敗死せり章后又馬
秦客と通ず時に上書して皇后の淫亂なるを云ふ者あ
り后及び其黨始めて疑懼す安樂公主章后の朝に臨み
て已と皇太女となさん事を望み共に謀りて帝を弑し
温王重茂を立て、自ら政を攝す是に於て相王の子隆
基兵を起して劉幽求と共に宮中に入り章后及び諸章
を捕へて之を斬り又悉く其黨を誅し温王を廢して相
王を立てたり是を睿宗皇帝といふ

第四節 開元の治及び天寶の亂

睿宗既に位に即き隆基を立て、太子となし宋璟姚崇

隆基内難
を定む

姚宋の諸
相政をな
す

として政をなさしむ紀綱修舉し天下翕然たり帝の妹
太平公主曾て屢大功を立てたるを以て頗權力あり太
子の英武を憚りて之を易えん事を謀りしが璟崇等の
力によりて幸に變なきを得たり帝在位三年にして自
ら太上皇と稱し位を太子に傳ふ是を玄宗皇帝といふ
帝位に即きて開元と改元す姚崇宋璟等相つきて相と
なれり崇は善く變に應じ璟は善く文を守り志操同じ
からずと雖も心を協せて輔佐し賦役を平にし刑罰を
省きたり故に唐の代の賢相と稱する者は前は房杜を
推し後は姚宋を推す後宇文融相となり天下の戸口を
檢括せん事を請求し自ら勸農使となり別に勸農判官
十人を置きて天下を分行せしむ是に於て州縣大に勞

李林甫相
となる

擾せり後韓休相となる休性峭直にして屢帝の過を諫めたり左右曰く韓休の相となりしより陛下殊に瘦せたりと帝曰く朕瘦せたりと雖も天下は肥えたりと既にして休罷めて張九齡相となりしが幾もなぐして九齡は中書令に轉し李林甫相となり林甫柔佞にして狡黠なり深く宦官及び妃嬪に結びて帝の動靜を探知す是れよりて奏對する毎に帝の旨に稱へり九齡の罷むるに及て林甫中書令を兼ね遂に政を專にす時に幽州の節度使張守珪敗軍の將安祿山を執へて京師に送る帝其才勇を惜みて之を赦せり祿山は本營州の雜胡なり母安氏に再醮するに及て遂に其姓を冒す是れ至て帝祿山を以て營州の都督となす祿山常に帝の左右

安祿山を
節度とな
す

に事ふを以て左右争ひて其才を稱す帝益祿山を賢と思へり
既にして天寶と改元す是歲祿山を平盧の節度使となし尋て范陽の節度使を兼ねしめたり翌年帝楊大真を以て貴妃となす是より貴妃後宮の寵を專にしたり六年祿山として御史大夫を兼ねしむ九年祿山を東平郡王となし河北道の採訪處置使を兼ねしむ翌年又祿山の爲めに第を京師に起して華麗を窮めたり祿山禁中に入る毎に先づ貴妃を拜す帝其故を問へば即曰く胡人母を先にして父を後にすと祿山平日貴妃の意を得て寵信を固くし宮掖に出入して醜聲屢外に漏れたり既にして帝又祿山をして河東の節度使を兼ねしめたり

祿山益寵
信せらる

祿山尤李林甫に警服し盛冬と雖も見れば必汗出つ林
 甫帝の左右に仕へて寵を固くし言路を杜絶し聰明を
 掩蔽し又屢大獄を起す相位にあると十九年天下の亂
 を養成せり林甫の卒するに及て祿山復憚る所を以時
 に楊國忠（貴妃の從祖兄にして）林甫に代りて相となり
 帝に謂て曰く祿山必反せん試に召さば必來らむと帝
 乃祿山を召しに祿山召を聞きて直に至れり是を以
 て帝毫も祿山を疑はむ左僕射を加へて歸らしめたり
（時に天寶也）翌年祿山蕃將を以て漢將に代えんと請ふ帝
 を原疑はむ又馬三千匹を獻せんことを請ふ是に至て帝
 始めて之を疑ひ使を遣はして其獻を止めしめたり是
 冬祿山遂に反し所部の兵及び奚契丹凡十五萬人を發

祿山の反

して南下す時に承平久しく百姓兵革を知らず州縣皆
 風を望て瓦解せり祿山進て洛陽を陥れ遂に大燕皇帝
 と僭號す時に平原（山東省）の太守顏眞卿常山（直隸省）の
 太守顏杲卿相つきて兵を起しとも王事に勤めたり
 しめ賊將史思明常山を陥れて杲卿を執へ洛陽に送り
 て之を殺せり既にして朔方の節度使郭子儀河北の節
 度使李光弼史思明を敗りて河北の數郡を復す然れど
 も兵馬副元帥哥舒翰賊と戦ひて大敗するに及て賊遂
 に關中に入るを得たり是に於て帝出奔して馬嵬（陝西）
（安府興平縣）に次す將士皆怒りて楊國忠等を殺し又帝
 に逼て貴妃を縊殺し然る後に發す父老道を遮りて留
 むらんことを請ふ帝乃太子亨をして慰撫せしむ父老又

玄宗蜀に幸す

太子の馬を擁して行かしてめざ太子遂に靈武に入り帝の意によりて位に即く是を肅宗皇帝といふ帝前帝を尊て上皇天帝となす時に上皇成都にあり帝李泌を召して共に事を謀り使を遣はして回紇の兵を徵す既にして祿山其子慶緒に弑せられたり帝鳳翔に至るに及て回紇葛勒可汗の子葉護兵四千人を將めて至る天下の兵馬都元帥廣平王俶副元帥郭子儀朔方の諸軍と回紇の衆とを率めて賊を撃破し遂に長安を復し又進て洛陽を復す安慶緒鄴に走る帝遂に長安に入り上皇も亦成都より還れり時に賊將尹子奇睢陽(河南府)を圍む初め眞源の令張巡兵を雍丘に起し屢賊を破り遂に睢陽に入り太守許遠と共に城を守れり子奇の來り圍む

長安及び洛陽を復す

思明九節度の兵と破る

に及て城中食盡きて城遂に陥り巡遠等皆執へられたり然れども江淮の保障となりて賊軍を止めたるは二人の功を大なりとす帝又郭子儀等の九節度使に命じて安慶緒を討たしむ時に史思明慶緒を救ひて大に九節度の兵を鄴に破れり思明遂に慶緒を殺し范陽に還りて燕帝と僭號す既にて李光弼郭子儀に代りて朔方の節度使兵馬元帥となれり光弼號令嚴整にして旗幟精明なり思明の洛陽を取らに及て光弼大に之を破れり幾もなくして思明の子朝義其父を弑して自立す翌年先帝崩し帝も亦崩しぬ初め張皇后李輔國と相表裏して權を專らしたりしが晩年に及て互に隙あり帝の疾篤きに及て后太子豫に輔國を誅せんを勸む太

史朝義を平く

藩鎮の起原

子きかす帝崩して輔國后を弒して太子を立つ是を代宗皇帝といふ帝輔國を誅し雍王造を以て天下の兵馬元帥となし諸將及び回紇の兵を將めて史朝義を討たしむ賊將李懷仙等朝義を斬りて降る是に於て國亂始めて平きぬ然れとも藩鎮の禍嗣きて起れり(代宗の時吐蕃を誘ひて入寇したるとあり又僕固懷恩の回紇を誘ひて入寇したるとあり又僕固懷恩の回紇を誘ひて入寇したるとあり)

第六節 藩鎮の盛衰

唐の初めには節度使の官をかりしが睿宗の時に始めて之を置きたり玄宗の時朔方隴右河東河西の諸鎮に悉く節度使を置きて數州を領せしめしより其勢日に強く遂に天寶の亂を醸成するに至りぬ

天寶の亂の起るに方て平盧の將劉客奴董晉王立志等

鎮を擧げて朝廷に歸す玄宗乃客奴を節度使となし名を正臣と賜ふ既にして立志正臣を醜して之に代れり立志の卒するに及て李懷玉立志の子を殺し侯希逸を推して平盧軍使となす帝乃希逸を以て節度使となせり軍士の節度使を廢立する是より始りぬ帝又董晉に姓名を李忠臣と賜ひ淮西の節度使となす尋て希逸を淄青に移し平盧の稱を兼ねしめたり天寶の亂平くに及びて代宗賊の降將李懷仙と盧龍の節度使に薛嵩を昭義の節度使に田承嗣と魏博(後稱す)の節度使に李寶臣を成徳の節度使にす是より河北の諸鎮相黨援して朝命に抗せり然れとも帝専ら姑息を事として復制すること能はむ且各鎮の將士其主を逐ひて自ら

節度使となる者あれば直に其官を授けたる者多かり
き平盧の將李懷玉侯希逸と逐ふや詔して留後となし
且名を正巳と賜ひたり又盧龍の將朱希彩李懷仙を殺
すや希彩をして鎮を領せしめたり(三年)其後盧龍の將
又希彩を殺し朱泚を以て鎮を領せしめんとを請ふ
依て又泚を節度使となす既にして泚弟滔をして已に
代らしめて入朝したり是時河北の諸鎮益跋扈して朝
命に従はず帝永安公主と田承嗣の子に妻はして其心
を結はんとせしに承嗣益驕慢にして朝命を奉せず昭
義の諸州を陥れたり帝諸道の兵を發して之を討せし
む互に勝敗あり既にして李正巳兵を按して進まず李
寶臣も亦寇を玩ふの志あり帝如何ともする能はずし

て其罪を許したり兩年を経て承嗣卒し姪田悅代りて
節度使となれり是時淮西の將李希烈李忠臣と逐ふ依
て又希烈を以て節度使となせり帝在位十八年にして
崩し太子適立つ是と德宗皇帝といふ
帝勵精政となし涇原の叛兵を平け楊炎盧杞を擧げて
相となす杞性陰狡にして口辨あり遂に政權を專れず
朝廷の政是より亂れたり
成徳の李寶臣卒して子の惟岳自ら留後と稱す初め寶
臣李正巳田承嗣と相結ひて土地を子孫に傳へんとを
期す故に承嗣の卒せし時共に朝廷に請ひて田悅に代
らしめたり是に至て悦も亦惟岳の爲めに繼襲せしめ
んとを請ふ帝前弊を革めんと欲して許さず悦乃李正

河北四鎮の反

已と共に謀を通し兵を勅して邢洛に寇す帝馬燧李抱
 眞李晟に詔して之を討たしむ悦戦敗れて居城に還り
 て固守す是時李惟岳も亦反す帝朱滔をして之を討せ
 しむ既にして成徳の將王武俊惟岳を殺せり是に於て
 武俊節度使たるを請ひ滔深州の地を請ふ帝皆許さず
 二人深く怨望の心を抱きたり田悦乃使を遣はし二人
 に説きて反せしめ平盧の李納(正) 正も亦田悦等と合す
 是に於て朱滔王武俊と田悦を救ひて趙州に寇す帝李
 懷光に詔して之を討せしむ滔武俊大に懷光の兵を破
 り進て魏州に至る朱滔は冀王田悦は魏王王武俊は趙
 王李納は齊王と稱す滔盟主となりて孤と稱し武俊悦
 納は寡人と稱しぬ

李希烈の反、涇原の變

是時に方りて李希烈亦反し遂に襄城に寇す是に於て
 涇原道等の兵を發して之を討つ涇原の兵京師を過さ
 りしに糲食菜餒を以て犒ひしむは衆怒て亂をなす帝
 太子諸王と共に奉天に出奔せり時に朱泚京師に在り
 しむは亂兵泚を奉して主となす泚大秦皇帝と僭號し
 遂に奉天を犯す是に於て李晟兵を率ゐて赴援し遂に
 奉天の圍を解きたり李懷光も亦難に赴きて泚の兵を
 破り奉天に至りて盧杞の姦邪を白さんとし杞に隔て
 られて見ゆる能はせ依て上表して杞の惡を訴ふ時に
 衆論亦杞を咎めたりしむは帝已むを得ずして杞を貶
 したり陸贄帝に勸めて已を罪し天下に大赦せしむ是
 に於て王武俊田悦李納上表して罪を謝し皆王號を去

李懷光の反

れり然れとも朱滔は尙朝命と拒み李希烈は大楚皇帝と僭號せり時に李懷光朝廷を脅して盧杞を斥けたると以て内自ら安せず遂に朱泚と謀を通し其將を遣はして奉天を犯す帝又梁州に出奔せり既にして李晟長安を克復す朱泚將に吐蕃に走らんとして其將韓旻に殺さる是に於て帝復長安に還るを得たり是時懷光河中にあり渾瑊馬燧等と戦ひて敗績し遂に自ら縊死す淮西の將陳仙奇亦李希烈を殺して降り帝乃仙奇を以て節度使とす幾もなくして其將吳少誠又仙奇を殺す依て又少誠を留後となせり後少誠の反するに及て韓全義に命して之を討たしむ全義戦はずして潰れ帝遂に少誠を赦せり是の時に方て藩鎮の勢益盛なりき

藩鎮の勢益盛なり

帝在位廿一年にして崩し太子誦立つ是を順宗皇帝といふ帝在位僅に八ヶ月にして自ら太上皇と稱し位を太子純に傳へたり是を憲宗皇帝といふ帝聰明英毅にして天下を治むるを志となす曾て同平章事杜黃裳と藩鎮を論ず黃裳曰く陛下綱紀を振はんと欲せば稍法度を以て藩鎮を裁制すべしと既にして西川の節度使劉闢反して梓州を圍みしかは帝高崇文に命して之を討たしむ又夏州の留後楊惠琳朝命を拒みしかは帝又詔して之を討たしむ既にして兵馬使張承全惠琳を殺す崇文も亦成都に克ちて劉闢を擒にせり翌年武元衡李吉甫を同平章事となす是時に方て藩鎮惕息して入朝を求むる者あり帝鎮海の節度使李錡を徵しに錡

憲宗藩鎮を威服す

兵を擧げて反す是に於て又諸道の兵を發して之を討
 たしむ時に兵馬使張子良綺を執へて京師に送りぬ
 帝河北諸鎮の世襲の弊を革めんと欲し成徳の王士眞
 (武)子の死に乗し朝廷より人を叙せんとす李絳曰く范
 陽(魏)博(安)季易定(昭)茂淄青(李)道の地成徳と相鄰れり
 若此事を聞かば必内に自安せずして陰に相黨援する
 に至らんと帝さかす遂に士眞の子承宗の官爵を削奪
 し吐突承瓘として之を討たしむ田季安陽に朝廷を輔
 けて陰に承宗と謀を通す承瓘戦利なきを以て罷めら
 る既にして承宗使を遣はして罪を謝す李師道も亦屢
 上表して之を許さんとを請ふ帝師の久しく功なきを
 以て遂に承宗を洗雪し悉諸道行營の將士を罷めたり

淮西の反

其後田季安卒し子の懷諫幼弱なりしかば帝田興を拜
 して留後となす尋て節度使となし斐度を遣はして宣
 慰し錢百五十万緡を賜ひて六州の百姓を給復し且名
 と弘正と賜ふ諸鎮の使者之を見て曰く崛起なる者何
 の益かあると是より益朝廷に歸向する意ありき
 初め淮西の吳少誠死して弟少陽之に代れり後少陽死
 して子の元濟自ら軍府を領し兵を縦て東畿を侵略す
 帝十六道の兵を發して之を討たしむ時に李師道等元
 濟を許さんとを請ふ帝さかす斐度淮西を巡視して還
 り其取るべきの状をいふ帝乃兵事を度と武元衡とに
 委し賊を討つとを謀れり師道謂らく度と元衡とを殺
 さば佗は天子に勸めて兵を罷むるならんと遂に刺客

淮西を平

と遣はして元衡を刺し度を傷けぬ帝益怒りて賊を討つと甚急なり且度を以て彰義の節度使を兼ねて淮西の宣慰招討使となし諸軍を督して三道より進討せしむ西面の將李愬降將の計を用ひて雪夜に七十里を行き兵を引きて城中に入り遂に元濟を擒り是に於て又人を使はして王承宗に諭す承宗質を納れて德棣二州を献す依て詔して其官爵を復す幽州の節度使劉聰も亦歸順す唯李師道のみ服従せず帝乃李師道を討つ田弘正李愬と屢師道の兵を破る既にして平廬の將劉悟師道を殺して首を弘正の營に送れり凡藩鎮跋扈すると六十餘年黃河の南北三十餘州に亘りしが是に至て悉く朝廷の約束に遵ふに至れり帝の世杜黃裳斐

藩鎮の勢
始て衰ふ

度李逢吉武元衡等の名臣相尋て相となりしが皇甫鎛の相となるに及て紀綱稍衰ふ帝在位十六年にして遂に宦官陳弘志に弒せられたり是に於て太子恒立つ是を穆宗皇帝といふ是より後宦官益專恣なり

第六節 宦官の跋扈及び朝臣の朋黨

玄宗の時宦官高力士大に信寵せられたり是れ即宦官權を得る始なり肅宗の時李輔國上皇(玄宗)と西内に遷し代宗の時魚朝恩郭子儀を請し程元振來愼を請し斐冕と斥けたるが如きとあり然れとも前後誅せられたる者多く專恣未だ甚しきに至らざりき德宗の時に及て宦官として禁軍を掌らしめ又機務に參與せしめたるより其勢甚盛なるに至れり

宦官專恣
の原因

宦官憲宗
を弑す

憲宗の時陳宏志帝を弑して穆宗皇帝と立つ帝在位四年にして崩し太子湛立つ是を敬宗皇帝といふ帝荒淫にして政を嬖倖に委す又性偏急にして屢宦官を捶ちたり故に宦官皆帝を怨めり帝曾て夜獵より還り宦官劉克明蘇佐明等と共に酒を飲む克明等遂に帝を弑し制を矯めて絳王悟と立つ宦官樞密使王守澄等禁軍を率めて賊を討し絳王を殺して江王涵と立つ是を文宗皇帝といふ帝の世に至て宦官益横にして天子を凌くの勢あり帝舉人と親策するに方て劉蕡其弊を極言す時に考官宦官を恐れて蕡を斥けしかば物論囂然たり既にして帝宋由錫と謀りて宦官を誅せんとす王守澄乃由錫を誣告して開州司馬に貶したり帝又李訓鄭注

宦官敬宗
を弑し文
宗を立つ

甘露の變

等と宦官を誅せんまを謀れり訓注は共に守澄の薦めたる者なり訓注と勢位俱に盛なるに及て注を忌み中外勢を合すべしと稱し注を出して鳳翔を鎮せしめたり又宦官仇士良を進擢して王守澄の權を分ち遂に守澄を鳩殺せり注訓と謀り壯士數百をして守澄の葬を護せしめ悉く宦官の會葬者を殺さんとす既にして訓別に自宦官を誅せんまを謀る一日帝紫宸殿に御す訓人として金吾聽事の後なる石榴に甘露ありと奏せしむ帝乃仇士良をして諸宦官を帥めて往きて觀せしむ士良等聽事に至り兵を執る者あるを見て大に驚き走り還りて變を告ぐ訓乃金吾の衛士を呼て殿に上らしめ僅に宦官十餘人を擊殺し事の濟らざるを知りて走

りぬ士良等神策の兵に命して金吾の吏卒を殺し又宰相王涯賈餗舒元與等を執へて腰斬す李訓鄭注も亦相尋て殺されたり是より天下の事皆北司(一に内侍省の居なる所)に決し宰相は文書を行ふのみなりき帝在位十五年にして崩しぬ士良等太子成美(敬宗の敬子)を廢して穎王漙と立つ是を武宗皇帝といふ時に李德裕相となりて政をとれり

初め穆宗の時德裕翰林學士たりしが中書舍人李宗閔の曾て其父吉甫を讒りたるを恨み宗閔を構へて劍州の刺史に貶したり是より各朋黨を立て、相排軋するに至れり(李逢吉と李紳との争ひは略して叙せず)文宗の世德裕兵部侍郎たり斐度其相となるべきといふ然るに宗閔宦官の助

朋黨の原
因

李宗閔牛
僧孺李德
裕を排す

によりて相となり德裕を出して義成の節度使となし牛僧孺を引きて相となす二人力を協せて德裕の黨を排斥せり尋て德裕を移して西川の節度使となす德裕士卒を鍊り堡障を修め大に心を邊防に致す時に吐蕃の將悉怛謀維州の地を以て降を請ふ德裕乃其降を受けて状を奏す牛僧孺以て納る可からずとなし遂に城と叛將とを歸さしめたり是より牛李の怨愈深くなりぬ文宗尋て僧孺を出して淮南の節度使となし德裕を召して相となす又宗閔を出して山南西道の節度使となせり文宗毎に嘆して曰く河北の賊を去るは易く朝廷の朋黨を去るは難しと德裕又連に貶せられて袁州の長史となり宗閔も亦明州の刺史となれり帝の位に

牛李の怨

德裕また
出づ

即くに及て復德裕を召して相となす時に昭義の節度使劉從諫卒し姪稹自ら軍府を領す德裕曰く澤潞は河朔三鎮と事跡を同うせず河朔は歷朝度外に置けるも澤潞は近く心腹にあり若し漫に其自ら領するに任したらんには威令諸鎮の間は行はれずと依て三鎮の兵と朝廷遣る所の行營の將とに命して之を討せしむ既にして潞人稹を殺して降り澤潞初めて平きぬ是に於て德裕に大尉衛國公を加へ更に牛僧孺を貶して循州の長史となし李宗閔を封州に流したり帝在位七年にして崩しぬ宦官馬元贄光王怡を立つ是を宣宗皇帝といふ時に牛僧孺衡州の長史に遷り李宗閔柳州の司馬に遷れり德裕も亦相を罷めて東都の留守に遷り遂に

澤潞を平
く

朋黨始め
て絶つ

崖州の司馬に貶せられたり三人の死するに及て朝臣の朋黨始めて止みぬ然れとも宦官の專恣猶未だ止まざ帝曾て令狐綯と謀りて悉く宦官を誅せんとす綯曰く罪あれば捨て難く缺ありて補はされは自然に消耗して盡くるに至らんと宦官竊に其奏を見しを以て益朝士を惡めり帝在位十四年にして崩しぬ宦官王宗實等詔を矯めて鄆王温を立つ是を懿宗皇帝といふ

第七節 海内の争亂及び唐室の滅亡

懿宗の時に方て唐室の勢漸く衰へ浙東の賊裘甫江南を浸擾して其勢甚盛なり帝王式を觀察使となして之を平けたり尋て徐州の龐勛も亦兵を起したり初め南詔(今雲南地)屢入寇するを以て徐泗の兵に桂州(廣西)

唐室始め
て亂る

府林と守らしめしか期と過ぎて更代せしめず是に於て
 其兵遂に亂となし糧料判官龍助を奉して主となし兵
 と擁して徐州に還り節度使を殺し諸郡を陥れたり官
 軍屢敗岬す既にして招討使康承訓沙陀の朱邪赤心を
 前鋒となして之を平けたり帝赤心に姓名を李國昌と
 賜ひ大同大同西府省の節度使となし尋て振武の節度使と
 なす帝在位十五年にして崩しぬ宦官劉行深韓文約晋
 王儂と立つ是を僖宗皇帝といふ時に賦歛愈急なりし
 かは百姓困窮愈甚しく相聚りて盜をなすに至れり濮
 州の人王仙芝兵を曹濮共山東省の間曹州府に起す曹州の
 人黃巢衆を集めて之に應ず數月にして衆數萬人あり
 仙芝鄭河南許州府汝汝州府等の諸州を陥れ鄂州湖北武昌府を侵

也荆南に寇す招討使曾元裕之を破りて遂に仙芝を殺
 せたり黃巢鄆山東泰安府沂沂州府濮濮州府の諸州を陥れ宋河南開封府
 汴開封府を掠め更に江を渡り饒江西饒州府洪南昌府等の諸州
 を下す又宣州安徽宣州府に寇す既にして浙東に破れ又遂
 に廣南に走り廣州廣東廣州府を破り又北に渡り襄陽湖北襄陽府
陽に向ひ荆門に敗れて復南し宣州を下す既
 にして江を渡り淮を渡り申州湖北漢陽府を陥れ遂に洛陽
 を取り潼關より長安に入りぬ帝蜀に出奔す巢大齊皇
 帝と僭號せり
 時に李國昌の子克用兵馬使となりて蔚州大同軍に屬
宣化府に在り諸將謀て曰く今天下大に亂れて朝廷の
 號令四方に行はれず是即英雄の功名富貴を謀る秋を

李克用の
興起

り李振武の名天下に振へり而して其子の勇諸軍に冠
たり若し之を輔けて事を擧げなば代北は平くるに足
らずと遂に克用に説きて雲州を取り又忻代に寇し晋
陽に逼らしめたり既にして盧龍の兵大に克用を破り
蔚朔の兵國昌を破りしかば父子逃れて韃靼に走りぬ
帝其罪を赦して黃巢を討たしむ克用乃沙陀の兵を將
めて來り連戰賊を破りて長安を復す巢宮室を焚き遁
れて蔡州に至り遂に汴州に趨く克用等進撃して大に
之を破り遂に之を平けたり是に於て帝蜀より復長安
へ還りぬ
帝の蜀に奔りし時宦官田令孜之を挟みしを以て自ら
功をなし稍權を專にす又河中の王重榮を忌みて鎮を

近後の孫
亂

移さしめんとす重榮さかす令孜乃朱玫を遣はして之
を攻めしむ克用時に朱全忠と隙あり朝廷の全忠を罪
せざるを怨みて遂に兵を引て河中を救ふ(全忠初め朱
温と稱し其
を全忠と稱
す)
其の將たり
度使と稱す
及て來降す
帝名を全忠
と稱す
對して禮を
なすを得た
り是に於て
上表して全
忠を罪せし
む
大に怨望の
心を抱きた
り
 長安震恐す令孜乃帝を劫し
て鳳翔に奔れり朱玫肅宗の玄孫襄王温を立てし帝を
なす既にして攻其將王行瑜に殺され温も亦河中に奔
りて殺されたり帝乃長安へ還り尋て崩しぬ在位十五
年なり宦官楊復恭壽王傑を立つ是を昭宗皇帝といふ
時に岐州の李茂貞華州の韓建邠州の王行瑜兵を擧げ
て關を犯ししむ李克用の來討つと聞きて去りぬ克用

邠州と攻めて行瑜を斬り將に兵を岐華に移さんとす
 時に貴近の臣沙陀の太盛を恐れて之をととめ克用の
 爵を進めて晋王となし晋陽に還らしめたり是に於て
 茂貞また兵を將めて闕を犯す帝華州に出奔せり克用
 兵を遣はして帝を救ふ全忠も亦洛陽に營みて車駕を
 迎へんとす韓建等之を聞きて大に懼れ帝を奉して長
 安に還りたり既にして宦官劉季述帝を少陽院に幽し
 て太子裕を立つ同平章事崔胤神策軍將に説きて季述
 を誅し帝をして位に復らしめたり宦官竊に謀りて胤
 と去らんとす時に朱全忠天子を挟みて天下に號令す
 る志あり胤乃書を以て全忠を召す全忠兵を將めて來
 る宦官韓全誨等帝を劫して鳳翔に如き李茂貞に依り

朱全忠の
勢力

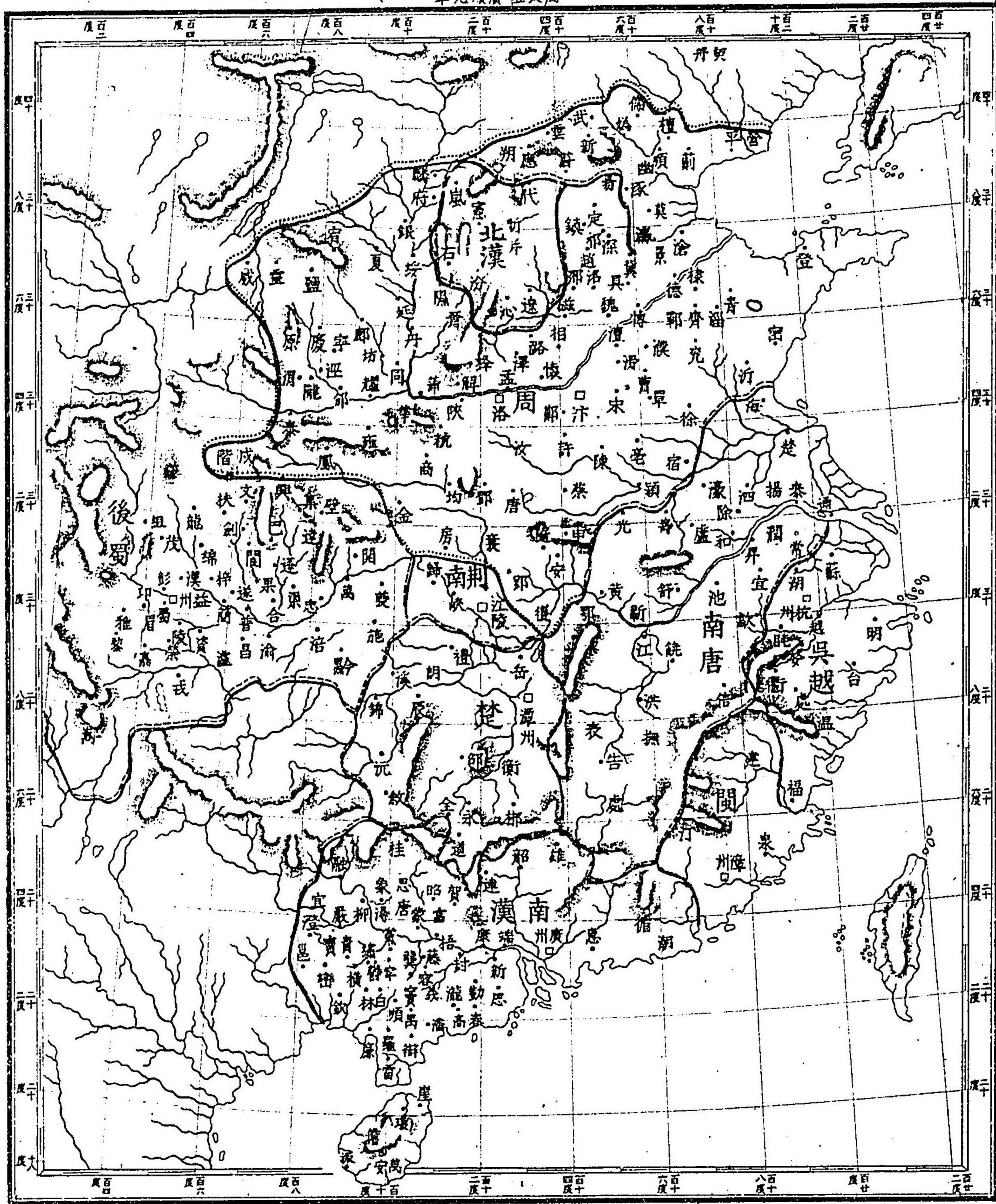
宦官を殺
す

全忠唐を
築す

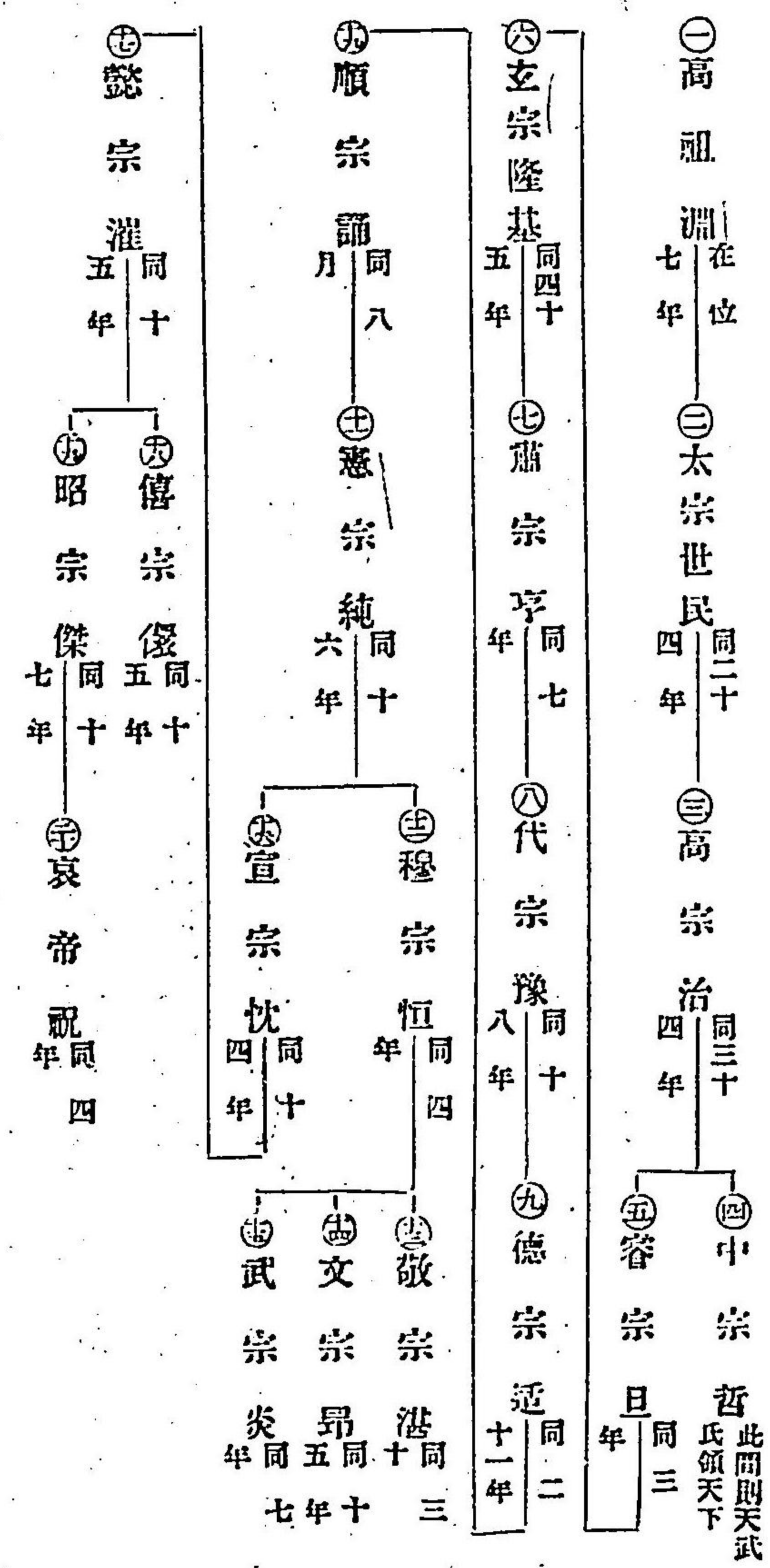
しかば全忠從て鳳翔を圍みたり茂貞乃全誨等を殺し
 て全忠と和解し又帝をして長安に還らしめたり全忠
 悉く宦官を誅殺し(唯黄衣の幼弱なる者三十人を留めて酒掃に供せしめたり)遂に
 梁王の爵を受けて汴に還りぬ是時に方て全忠の威天
 下を動かし竊に篡奪の志あり依て其黨をして崔胤を
 殺さしめ又帝に請ひて都を洛陽に遷したり既にして
 全忠帝を弑して其子祚を立つ是を哀皇帝といふ全忠
 廢太子裕等九人を殺し自ら相國となり遂に帝に迫て
 位を禪らしめたり唐高祖より二十世二百九十年にし
 て亡びぬ

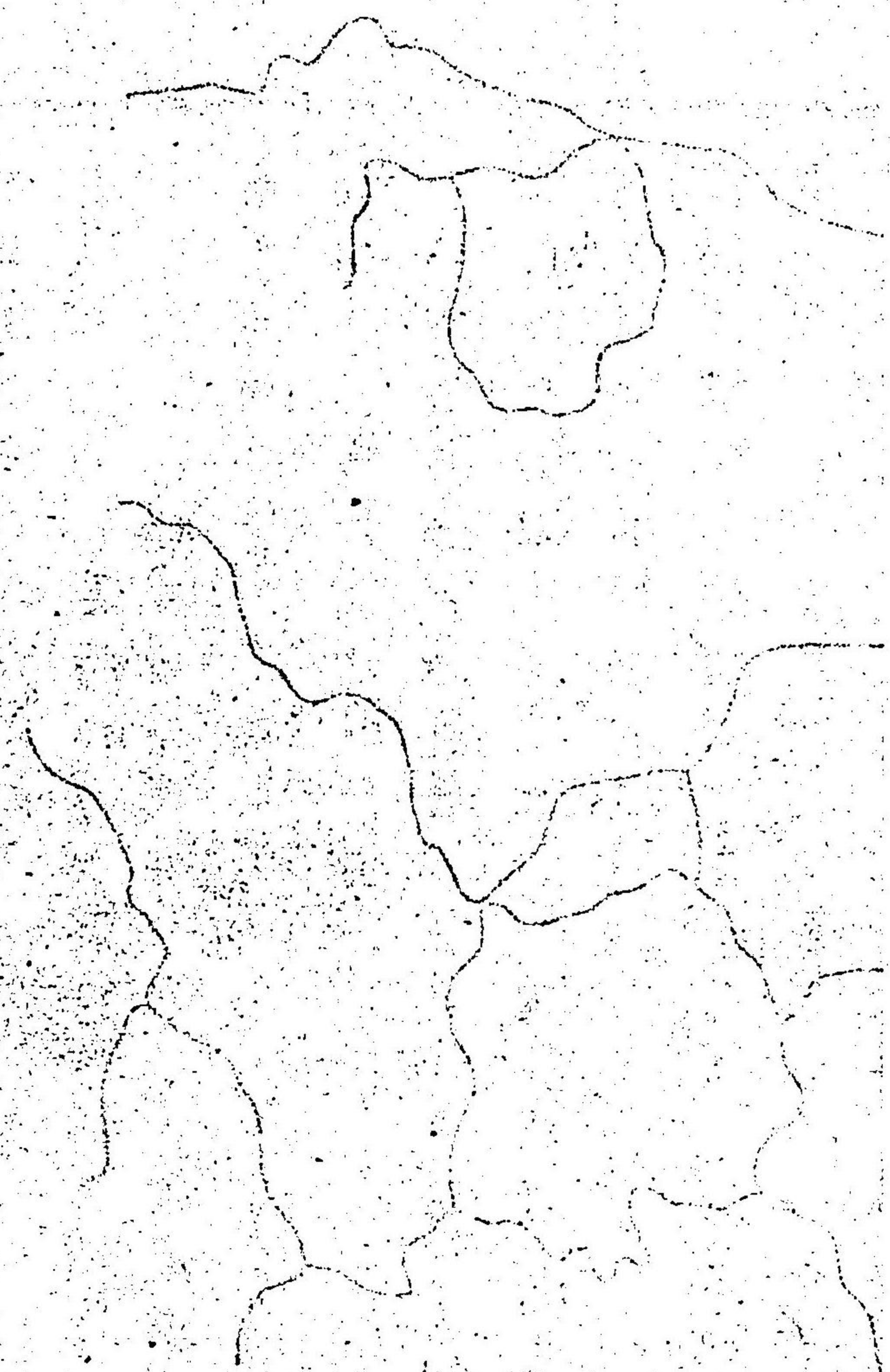
五代列國圖

年元順廣祖大周



唐の帝系





第三章 五代の更迭五代は漢周をいふ
 第一節 梁唐の交争及び其興亡

朱全忠既に帝位に即きて大梁に都せり是を後梁の太

祖皇帝といふ是時に方て群雄各地に割據し天下未だ

平めざらば揚行密は淮南に據りて吳王と稱し錢鏐は兩浙の地を

據りて吳越國王と稱し楚王と稱し閩に據りて廣に據りて

稱したり晉王李克用晋陽に在りて常に帝と相争ひた

り初め克用養子存信及び勇將薛阿檀を殺しより兵

勢寝弱く屢梁兵に破られて數州の地を失ひ又晋陽を

圍まれしを前後兩回なり帝の位に即くに及て克用の

官爵を削奪し康懷貞李思安等に命し潞州を攻めて上

黨を圍ましめたり晋の李嗣昭固く守りて下らざる既に

梁太祖の即位

李克用の末跡

李存勗梁軍を敗る

して克用疽を病て卒し子の存勗代り立つ存勗諸將と謀り急に兵を引て潞州を救ひ大に梁軍を破れり鎮州の王鎔定州の王處直存勗を推して盟主となす後梁の兵鎮州を攻めて諸郡を取らに及て存勗又梁兵を栢郷に撃ちて大に之を破れり遂に鎮定の兵を將めて燕王劉守光を伐つ初め劉仁恭幽燕の地に據りし其子帝乃自ら兵を將めて燕を救ひしか又大敗して還れり帝性淫虐にして假子友文の妻を寵し將に友文を立てて嗣となさんとす次子友珪遂に帝を弑して自立せり時從三子友貞東都の指揮使たりし兵を起して友珪を誅し自ら帝位に即ぎぬ是を末帝といふ帝の位に即ぐに方で存勗既に燕を破りて守光を執へ

梁の太祖秘せらる

存勗燕を破る

其勢益盛なり梁の賀德倫魏博等の諸州を以て晋に降り救を請ふ存勗乃魏博に至り更に兵を出して德澶二州を抜く梁の劉鄩晋軍と相持したりしか窃に兵を率めて晋陽を襲んとして果さず又魏州を攻めて晋軍は破られたり帝更に王檀を遣はし陝華等の諸州の兵を發して晋陽を攻めしめしかまた勝たず是に於て存勗屢梁を攻めて楊劉山東省泰安府東阿縣の北にありを取り遂に大に梁軍を破れり晋軍德勝直隸省開州大に於て河を挟みて南北の兩城を築き又梁の鄆州を取れり帝王彦章を以て將となし晋軍を討たしむ彦章急に兵を引て德勝に至り其南城を抜き又諸寨を破り遂に進て楊劉を攻めしり克

存勗大軍梁を討つ

梁の滅亡

たす帝讓を信して彦章を召還す尋て又彦章をして鄆州を攻めしむ存勗自ら之を救ひて大に梁軍を破り遂に彦章を擒らし進て大梁に入りぬ(帝既に入をたしけ)梁凡二世十七年にして亡ひぬ是より先き存勗傳國の璽を得て帝位に即きぬ是を後唐の莊宗皇帝といふ帝大梁に都し尋きて又洛陽に遷れり時に蜀王王建既に卒し子宗衍淫湎にして國內治るを帝乃皇子繼笈と郭崇韜とを遣はして之を伐たしめ遂に蜀を滅したり是より帝寢驕恣の念を生じ音律を嗜みて伶人を寵任す伶人宮中に出入して搢紳を侮弄し又政事に參與して恣に讒慝をなす者多かり帝又諸宿將を疎し軍士を恤へず屢出獵して民田を荒し

唐莊宗の驕恣

李嗣源の反

りしおは大に上下の人心を失へり瓦橋を守りた多魏博の兵の代歸せんとするや帝また貝州に屯せしめたり是に於て將士怒て亂をなし趙在禮を奉して鄴都に據れり帝李嗣源に命して之を討たしむ嗣源城下に至りし時軍人之を脅して城に入り城中と勢を合せんぜず嗣源詭辭を以て在禮に説きて出つるを得安重誨の言により関に至りて罪を謝せんとす相州に至りし時諸者既に其叛を奏したり石敬瑭曰く上將叛卒を共に敵城に入りて他日の安全を期するは難し大梁は天下の都會なり宜しく先づ之を取らんと嗣源乃敬瑭を前鋒となし李從珂を殿となし進て大梁に入りぬ帝洛陽に在り嗣源の叛を聞きて關東(取水關以)に往かんと

たりしが大梁の既に取りられたるを聞きて復洛陽に
 還る從馬直郭從謙反を謀りて帝を攻む帝流矢に申り
 て崩ぬ在位纔に三年なり嗣源洛陽に入りて監國と
 なり遂に帝位に即きぬ是を明帝皇帝といふ
 帝本名は遊恪烈克用の養子にして本胡人なり帝聲色
 を遠け遊畋を好まず在位の間海内頗治れり帝の長子
 從榮驕狼にして常に嗣とならざるを得ざるを恐れ帝の疾
 に乘して牙兵を率ゐて城に入らんとし皇城使安重益
 に斬られたり帝も亦悲駭の餘遂に崩しぬ是に於て次
 子從厚立つ是を閔皇帝といふ時に李從珂潞王となり
 て鳳翔を鎮たりしか朝臣に從珂を忌む者あり帝に
 勸めて其鎮を河東に移さしめんとす從珂の將佐皆曰

明宗の世

李從珂の反

と鎮を離れば必危しと遂に檄を鄰道に移し兵を起し
 て帝側の姦を除かんと稱す從珂陝に至りし時諸軍皆
 迎へて降り從珂洛に入りて帝を鳩殺し自ら位に即
 きぬ是を廢帝となす帝初めより河東の節度使石敬瑭
 と好むらす敬瑭時に晉陽にあり帝詔して鎮を鄆州に
 移さしめんとす敬瑭詔に從はず帝乃兵を遣はして往
 討せしむ敬瑭表を契丹に奉して臣と稱し事ふるに父
 の禮を以てす約して曰く事捷たは地を割かんと契丹
 主德光大に喜び騎五萬を將ゐて來り援け大に唐兵を
 破る敬瑭遂に進み洛陽に向ふ帝戰敗れて自ら焚死せ
 り唐凡四世十四年にして亡びぬ

石敬瑭の反、唐の滅亡

契丹の第三節 契丹の來侵及び晉漢周の興廢

契丹の興
起原

契丹は滿洲人種なり古より横山の南に居りて後魏の時に至て契丹と號せり時に太賀氏に八子あり八部の大人と號す八部の子孫三歲毎に更立す舊例なり是は唐の開元中に劬固といふ者ありて衆を統べたり是より世王となりて復更代せし梁の時に至て諸部相謀りて耶律韓里の少子阿保機と主とす阿保機奚渤海等の諸國を併せ其勢始めて盛なり阿保機死して子徳光立つ徳光石敬瑭を助けて唐の兵を破り敬瑭を立て帝とす是を後晋の高祖皇帝といふ帝遂に幽薊等の十六州(幽薊瀋燕雲朔代)と契丹に與つたり帝洛陽に都して復大梁に遷れり凡在位七年にして崩じ姪重貴立り是を出帝といふ高祖終に臨みて幼子重睿を立て

晋の興起

契丹の入寇晋の滅亡

是とする意ありし景延廣の議によつて遂に帝を立てたり延廣定策の功により事を用ひて専恣なり喪を契丹に告ぐるに臣と稱せず又大言して契丹を怒らす(延廣曰契丹を稱せり今上は中國の帝に立たり故は孫と稱せり契丹は天子の臣と稱せり)桑維翰屢進辭を以て契丹に謝せんことを請ひたりし如常に延廣は沮むれど果敢て契丹遂に兵を出して又寇す帝自將將となりて前後兩回其兵を破りたり既にして契丹主は怒太舉して表冠す帝杜威を北面行營都招討使とすし諸軍を率ふる契丹を拒かす杜威戦はずして降りぬ是に於て契丹の兵長驅して涿に及び帝を執つて冀國に送れり晋凡二世十二年に於て亡びぬ契丹主大梁

に入り胡騎を出して四方を剽掠す丁壯は鋒刃に斃れ老弱は溝壑に委したる者多し東西兩畿より鄭滑曹濮の地に至る數百里間は財帛を絶つに至れり是に於て人民怨憤して盜賊蜂起す契丹主曰く余中國の治め難きと此の如くなるを知らざりきと遂に兵を引て還れり是時劉知遠既に晋陽に在て帝位に即きぬ是を後漢の高祖皇帝といふ

後漢の高祖は沙陀の人なり晋祖終に臨みて遺命して入輔せしめしに晋の君臣之を匿したりしかば大に怨望し契丹の入寇するに及て敢て晋を救はず晋陽に在て帝と稱せり既にして契丹主國に歸りしかば遂に大梁に入りて都し弟崇を以て晋陽の留守となす帝在位

劉漢の興起

郭威漢に代る

一年にして崩し子周王承祐立つ是を隱帝といふ時に楊邠は同平章事、史弘肇は侍衛指揮使、王章は三司使となり三人心を盡して帝を扶けたり既にして帝嬖幸を寵信し遂に邠、弘肇、章を殺し又密詔を以て樞密使郭威を殺さしめんとす威時に兵を將めて鄴にあり之を聞きて大軍を引て來り自ら訴へんとす帝兵を遣はして之を拒かしむ或は叛きて降る者あり或は戦はずして還る者あり帝遂に亂兵に弑せられたり威京に入り太后に白して劉崇の子贇時に武寧の節度使たりを迎立せんとす既にして契丹入寇すと聞きて兵を將めて澶州に至る時に將士大に譟きて威を擁して南還し遂に漢に代れり是を後周の太祖皇帝といふ漢凡二世四年にして亡び

世宗北漢の兵を破る

ぬ
周の太祖の位に即くは方て劉崇は晋陽に在り并汾忻代等の十二州并汾忻代鳳石と領し國と北漢と號す帝在位三年にして崩し太子榮立つ榮は帝の妻兄柴守禮の子にして帝の養子なり是を世宗皇帝といふ劉崇太祖の崩したるを聞きて大に喜び兵を契丹に請ひて周を攻めんとす契丹其將楊衮をして万騎を率ゑて來り援けしむ崇も亦自ら三萬人を將ゑて來り進んで高平に陣す帝曰く崇大喪を幸とし且朕の年少なるを輕して必自ら來らん朕も亦自ら往かざる可からざると遂に兵を率ゑて高平に至り共に戰ひて大に北漢の兵を破れり是時宿衛の將趙匡胤最戰功あり依て匡胤を殿

世宗後蜀及び南唐を征す

世宗契丹を伐つ

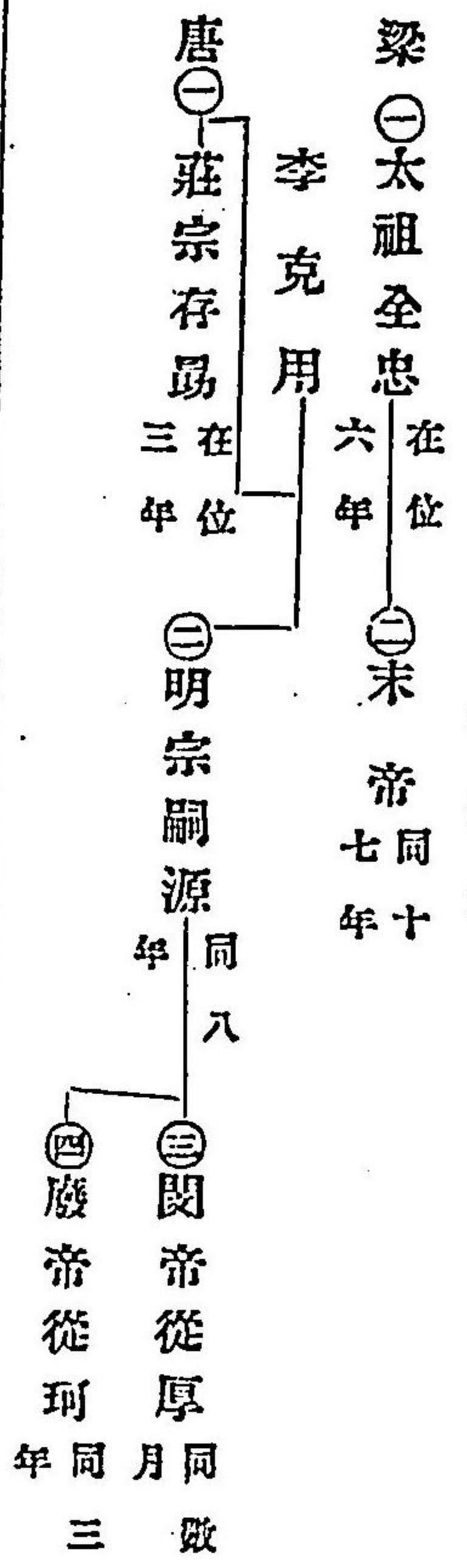
前都虞候となす帝侍臣に謂て曰く兵は精なるを要して多きを要せざと依て大に諸軍を簡閱せしめ又諸道に詔して天下の壯士を募り殿前の諸班となせり是より士卒皆精強なるに至れり帝遂に北漢を攻めて汾遼等の諸州を取り進て晋陽を攻めたりしが克たず帝更に後蜀を攻めて秦階成鳳の諸州を取り又屢南唐を伐ち大に唐兵を破る唐主江北の地を獻し帝號を去りて周の正朔を奉せり帝又契丹を伐ちて瀛莫易の諸州を取り盡關南の地を平け進て幽州に趨かんとしたりしが會疾にかかりしを以て戍を置きて還り遂に在位六年にして崩し帝軍陣に臨みて號令嚴明なり矢石左にして崩し右帝軍陣に臨みて號令嚴明なり矢石左を發き策を決すること人の神明の表に出平又儒者をし勤て史

趙匡胤周を篡す

を好まざる文武を大義を用いて各其能を盡さしめたり好む物
 能く所敵を破る者なかりき子梁王宗訓立つ是を恭皇帝
 といふ時に趙匡胤殿前都點檢たり帝匡胤を歸徳の節
 度使となし尋て定言を鎮せしめたり會契丹入寇した
 りしかば匡胤をして兵を將めて之を拒かむ匡胤陳
 橋驛(河南省開封府祥符縣)に至りし時軍士大に譟き匡胤を擁還
 して帝たらんことを請ふ帝遂に位を匡胤に譲れり周
 凡三世十年にして亡ひぬ是時海内尙分裂して南唐後
 蜀吳越荆南南漢北漢等の諸國ありしが後皆匡胤に滅
 されたり匡胤國を建て宋といふ是即太祖皇帝なり
 ①高平の戰(周と漢兵と陣を對壓するや周の先鋒先退く漢を
 宗乃諸軍を促れたり急合に戰ふ時に後軍未だ繼ぎるに

周歩の兵千餘を樊解能て何降りぬ世宗軍勢に於て右軍見
 趙匡胤曰く主帥の危きを冒し吾屬何ぞ死を將
 致し我れ破るべしと難か兵西に徳に謂て左翼を
 氣に於て各二千を將て擊つ公戰ひ其言に從ふ
 丹の先兵敢て北漢を援けす兵皆大破れし退走せり
 世宗の愛能何はぞ七に八正に睨を責めたり汝
 輩戰ふと能はざるに人收にめを奇貨とく汝
 劉崇の卒懼を抱きてるのみと英武に服斬しりた
 驍將の勇も懼を抱きてるのみと英武に服斬しりた

五代の帝系符號は養子の



	閩
王審知	吳越 錢鏐
<p>王審知は光州の人あり唐の昭宗の時に節度使となり後梁の太祖の時に閩王に封せられたり審知卒して子延翰立つ既にして其弟延鈞延翰を弑して自立したりしが又遂に亂兵に弑せられたり是に於て其子初立つ既にして軍使朱文進初を弑して延曦を立て尋て文進又延曦を弑して自立す閩人文進を殺して延曦の弟延政を立て、國を殷と號す後遂に南唐に併せられたり閩凡六世四十九年にして亡びぬ</p>	<p>錢鏐は杭州の人なり唐の昭宗の時鎮海の節度使となり遂に兩浙の地を有す後梁の太祖の時吳越王に封せられしかども亦敢て梁に従はず鏐卒して子元璠孫弘佐及び弘佐の弟弘侗相つきて立ちたり既にして弘侗廢せられて弘俶立つ宋の太祖の南唐を伐ちし時に兵を出して太祖を援く南唐亡ひて宋に入</p>

して亡びぬ

	南漢
劉隱	南唐 李昇
<p>朝す太宗の時悉其地を獻して淮海王に封せられたり吳越凡七世八十四年にして亡びぬ</p> <p>劉隱は上蔡の人なり唐の昭宗の時に清海の節度使となり南海の地を有せり隱卒して弟巖立つ巖遂に帝と稱す巖卒して子玢立つ玢驕奢を好みて心を國事に留めず弟晟玢を弑して自立す晟卒して子鋹立つ鋹殘酷にして大に人心を失ふ宋の太祖の來り伐つに及て遂に出て降れり南漢凡五世七十年にして亡びぬ</p>	<p>李昇は徐州の人なり徐温の養子となるに及て徐知誥と稱す吳の禪を受くるに及て舊姓名に復せり昇心を政に留め人民其堵に安す昇卒して子璟嗣く周の世宗の時江北の地を割きて周に與へ又帝號を去りて臣と稱せり璟卒して子煜立つ宋の太祖の來り征するに及て煜遂に出て降れり南唐凡二世三十六</p>